

The Graduates' Association of Tokyo University of Agriculture and Technology

農工通信

No.103 2022.8



陽光燦々



一般社団法人
東京農工大学同窓会
<https://tuat-dousoukai.org/>

TAT

同窓会長挨拶	2
理事長挨拶	2
一般社団法人東京農工大学同窓会第4回定時総会	3
同窓会役員等体制と支部長及び連絡員表	10
令和3年度同窓会学生援助事業報告	11
部会・支部・同好会だより	12
叙勲受章にあたり	16
伊東 正安、澤田 孚夫、高木 隆司、長谷川 正、脇田 久伸	
退職にあたり	20
酒井 憲司、佐藤 令一、柴田 秀史、東城 清秀、夏目 雅裕、 野見山敏雄、渡辺 元、伊東 道生、宇野 亨、小関 良宏、 田中 幸夫、長坂 研	
同窓生からの寄稿文	
農工大への支援に期待	深水 智明 織工 S38 24
日本の食料事情・農は国の基なり	前之園孝光 獣医 S44 24
農工大時代のチョットしたことが、 大きな結果を生みました。	花輪 正明 製糸 S46 25
東京農工大学のアフガニスタン教育支援	田谷 一善 獣医 S46 26

同窓会ホームページ「ギャラリー」より



佐藤 義隆（化工S47）

農工大卒業後早くも50年が経過し、最近はこのからの人生のこともさることながら過ぎ去った遠い昔のことがたまの様に思い出されます。とりわけ4年間、足繫く通ったこの農学部武道場で剣道の稽古にいそしんだ、仲間たちの発声、竹刀の打突音が今も私の記憶の彼方から響いてきます。そんな風景が忘れられず筆をとりました。

ホームページでは会員の方々の作品を掲載しております。みなさまも絵画・写真などで力作がございましたら、ぜひご紹介ください。

雑木林に暮らして	佐藤 久江	農学 S47	27
昨年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」に 岡谷蚕糸博物館が撮影協力	高林 千幸	製糸 S48	27
エビデンスのエビデンス	東野 正	林産 S50	28
沖縄復帰50年の節目に想う ふるさと農業振興への留学生の貢献	古賀 淳士	農学院 S54	29
日本三百名山完全登頂挑戦中	石田 一之	機械 S59	30
東野文男先生の一言から始まった私の人生	鈴木 祥一	機械院 S63	30
振り返って思うこと	榎木 治久	農化 S63	31
猟師になりました	稲葉 健司	農工 H2	32
大学時代から北海道余市までの 道のりを振り返って	平川 敦雄	生産 H11	33
東京農工大学少林寺拳法部OB会 「拳友会」の活動紹介	間野 大樹	機シス博H12	34
	間野(佐藤)聡子	物生 H8	
	才津 行弘	獣医 H11	
キャンパス便り			
野生動物管理のための狩り部	安田 和真	地域生態システム学科3年	35
掲示板			36
東京農工大学基金へのご支援について			38
事務局だより			40
第3回代議員選挙について			41
広 告			42

表紙の絵

「陽光燦々」 福岡 紀幸（機械院 S44）

機械工学科修士在学中は、樋口健治先生の影響で、卒研だけでなく油絵にもトライ。それから30年後、定年間際にドイツへの単身赴任が決定。熱中することが無いとホームシックが辛いぞと脅され、絵の道具をどっさり持参。週末には車を駆って各地を訪れ、スケッチ三昧の日々を送り、ホームシックとは無縁に。

帰国後、定年記念の個展を開催するなど、絵を描く事が生涯の趣味となりました。

表紙の水彩画は陽春の真鶴港の最近の作品です。海面は陽光に煌めき、逆光の中の漁船は息をのむ美しさ。

夕刻迄夢中でスケッチし、大作に仕上げました。

漁船は私のお気に入りのモチーフです。



題 字：沢野 勉（農化 S32）

会長挨拶

会長 五味 勝（電子S54）



会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

昨年6月に会長に選任いただいてから11月に副会長懇談会・部会長会、ホームカミングデー、12月に臨時支部長会議と参加させていただきました。ホームカミングデーは一昨年開催できず、昨年の開催も危ぶまれましたが、感染防止を徹底しオンライン参加も活用して開催することができました。当日は41名の方に会場にお越しいただきました。また昨年開催できなかった卒業式、入学式は規模を縮小しましたが、それぞれ3月25日、4月5日に開催することができました。卒業生及び新入生の皆様方には新しい門出の一日として記憶に残し

ていただけたことと思います。

大学の授業も感染リスクを制御しつつ通常の教育活動を取り戻すための活動が開始され、キャンパスに活気が戻り始めています。

本年6月18日に開催された第4回定時総会はコロナウイルス感染状況を踏まえ、昨年と同様に少数（近隣の代議員10名）での開催となりました。参加いただけない議員の皆様には、事前に議案に対する議決権行使をしていただき、出席いただいた議員の皆様の決議も併せて、全ての議案は決議させていただくことができました。今後の同窓会の各イベントは会員の皆様に安心してご参加いただき旧交を温める場として開催できることを期待しております。

同窓会の組織の強化と活性化を着実に前進させ、より良い同窓会として皆様にご提供できるよう努めてまいります。コロナウイルスに対する配慮が欠かせない日々が続いておりますが、皆様のご健康と益々のご発展を心よりお祈りしております。

理事長挨拶

理事長 桑原 利彦（生機S57）



この2年間は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、会員の皆様も大変厳しい事態に直面されたのではないかと拝察致します。まずは衷心よりお見舞い申し上げます。本学の学生もほとんどの講義を自宅でオンライン受講することになり、キャンパスも閑散としておりました。今年に入って徐々に収束の傾向が見え始めたことから、4月からは、三密回避を順守しつつも、学生は原則対面で受講出来るようになり、キャンパスにもようやく大学らしい活気が戻って参りました。

同窓会におきましても、各種会議をweb会議システムを利用する形式で開催し、活動が停滞し

ないよう、最大限の努力を払って参りました。また各会議においては、委員各位から大変有用なご意見を多く頂いており、大変有難いと思っております。

心温まる出来事もございました。修学困難学生支援を目的として、同窓会会長と農工大学学長名で同窓会会員に「東京農工大学基金」への寄附を呼びかけたところ、このような困難な状況下にもかかわらず、令和2～3年の2年間で2,670名の寄付者（卒業生1,334名、保護者1,334、その他2名）から総額101,982千円（卒業生55,770千円、保護者46,212千円）の多大なるご支援を頂きました。衷心より厚く御礼申し上げます。また同窓会からも500万円を寄附致しました。

同窓会は、会員相互の親睦を深め、同窓及び東京農工大学の発展を図るため、今後も様々な事業活動を行ってまいりますので、引き続き、同窓会へのご支援・ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

一般社団法人東京農工大学同窓会 第4回定時総会

■日時：令和4年6月18日（土）13：30～14：30 ■場所：府中キャンパス
 ■総会出席者：10名 決議書提出者117名 合計127名

第4回定時総会は、6月18日（土）府中キャンパスで開催された。新型コロナウイルス感染症対策として、今回の定時総会は、下記の形式で開催した。

- ・議題を限定
- ・本学の近くにお住いの代議員10名で開催
- ・上記以外の代議員は、あらかじめ通知された決議事項について書面又は電磁的方法を以て表決する。

定時総会の開催にあたって、戸田副理事長から、出席者が10名・決議書提出者が117名で定足数を超え通常総会が成立した旨の報告があった。五味会長から、出席いただいた方々に対するお礼と、有意義な討論のお願いの挨拶があり、来賓の千葉学長及び有江理事から大学の近況や取組等を交えたご挨拶をいただいた。

引き続き、戸田副理事長から、通常総会の議長については、定款第18条に基づき五味会長が務める旨の説明があった後、議事に入った。



議事

審議事項：1 議事録署名人選出（案）の件

桑原理事長から、議事録署名人選出（案）の説明があり、審議の結果、原案通り承認され定款20条により、五味会長と伊豆田代議員・西澤代議員が議事録署名人になった。

審議事項：2 定款変更（案）の件

桑原理事長から、定款変更（案）について説明があり、審議の結果、定款の変更【別記1】が承認された

審議事項：3 令和3年度 貸借対照表（案）及び令和3年度 正味財産増減計算書（案）の件

報告事項：① 令和3年度 事業報告の件

報告事項：② 令和3年度 監査報告の件

上記案件は関連するため、一括して審議及び報告がなされた。

桑原理事長から、令和3年度 貸借対照表（案）【別記2】、正味財産増減計算書（案）【別記3】、令和3年度事業報告【別記4】の説明があった。また、鈴木監事から令和3年度同窓会の監査について、適正に行われている旨の報告があった。

審議の結果、審議事項：3が承認され、報告事項①②が了承された。

審議事項：4 選挙管理委員選任の件

桑原理事長から、選挙管理委員の選任の件について説明があり、審議の結果、下記の方を選任することが承認された。

委員長 望月 淳夫（機械S50）
委員 長谷場 健（農化S49）
菅野 茂樹（織工S49）
西山 拓詩（地生H14）

審議事項：5 顧問の推挙の件

桑原理事長から、顧問の推挙の件について説明があり、審議の結果、下記の方の推挙が承認された。

顧問 内藤 照章（獣医S34）

報告事項：③ 令和4年度事業計画の件

桑原理事長から、令和4年度事業計画【別記5】について説明があり、質疑の後、了承された。

報告事項：④ 令和4年度収支予算の件

桑原理事長から、令和4年度収支予算【別記6】について説明があり、質疑の後、了承された。

【別記1】 定款の変更

一般社団法人 東京農工大学同窓会 定款の第9条及び第22条を以下のとおり改正する。

（代議員の任期）

第9条 代議員の任期は、~~選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。ただし、任期満了後においても後任者が選出されるまではその職務を行わなければならない。~~代議員の任期は、第7条に定める選出時から2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結後、後任者が選出されるまでとする。

（会長及び副会長）

第22条 会長及び副会長は総会において代議員の中から互選により選任する。

任期は次の会長及び副会長の選任時までとする。

附則

（定款の変更）

6.（令和4年6月18日 一部変更 代議員の任期・会長及び副会長の任期の改正）

【別記4】 令和3年度 事業報告

（1）第3回定時総会の開催

令和3年6月19日（土）府中キャンパスにて第3回定時総会を開催した。（出席者9名・決議書提出者138名）審議事項1：議事録署名人選出（案）の件。審議事項2：定款の変更（案）の件。審議事項3：会長・副会長・理事及び監事選任の件。審議事項4：令和2年度 貸借対照表（案）

及び令和2年度正味財産増減計算書（案）の件。報告事項①：令和2年度 事業報告の件。報告事項②：令和2年度 監査報告の件。審議事項5：会費の額の定めの変更（案）の件。審議事項6：名誉会長・名誉顧問の推挙の件。報告事項③：令和3年度 事業計画の件。報告事項④：令和3年度 収支予算の件。その他

（2）令和3年度各種会議の開催

理事会を令和3年5月、6月、11月及び令和4年3月にWeb会議システムを利用する形式で開催した。令和3年11月に副会長懇談会・部会長会をWeb会議システムを利用する形式で開催した。令和3年12月に臨時支部長会を開催した。

（3）同窓会組織の強化及び活性化

- 1）一般社団法人にふさわしい形で、安定した運営が行えるようにした。
- 2）部会・支部・職域組織の同窓意識の向上と会員交流の促進を図る方策として「農工通信」の年2回発行を継続し、学外編集委員と共に内容の充実に努めた。
- 3）運営委員・監事・事務局長の部会・支部への派遣は新型コロナの感染状況を見ながら可能であれば行い、今まで派遣していない支部にも派遣できるようにする。大学役員の派遣依頼にも応えられるよう大学との連携を図った。
- 4）部会・支部活動の活性化のための支援の方策を検討した。
- 5）卒業生に対して、大学が発行する証明書の発行手数料を援助した。
- 6）同好会活動の充実に努めた。
- 7）部会・支部のホームページ立ち上げに協力するとともに、同窓会WEBページにある「会員交流広場」、「ギャラリー」等の活用法及び充実について検討を重ねた。
- 8）本年度内に開催される、新卒業生の同期会開催経費（WEB開催可）の支援を行い、若い世代との情報網を構築した。
- 9）入会金・賛助会費等の会費の更なる納付率向上のための方策を検討し実施した。
- 10）歳出削減に努めた。

（4）同窓会の課題及び今後の対応

- 1）学内外問わず、同窓会活動をご理解いただくため、同窓会紹介パンフレット（入学時及びペアレングスデーにて配布）及び同窓会WEBによるPR活動に努めた。
- 2）分収林返還後の旧分収林の利用方法について、八王子市役所と協議を継続した。
- 3）海外支部設置について、検討を引き続き行った。
- 4）農工通信の未着信な会員について追跡の動静調査を行った。
- 5）祝電・弔電により祝意・弔意を表した。また、本会の発展に顕著な功績があった者に感謝状を贈呈した。

（5）準会員に対する援助、新入会員歓迎行事の継続実施

大学と協力しながら就活セミナー等の開催や同窓会推薦キャリア・アドバイザー支援の援助等を行うことで、同窓生となる準会員（学生）に対して、就職支援等の充実に努めた。

準会員の勉学・学生生活に関して、学会・コンテスト・コンクール等の発表・入賞祝い、学会誌・論文誌発表等援助、優秀卒論副賞等の援助、学園祭・課外活動の援助及び卒業・修了証書カバーの贈呈を行った。

（6）その他

- 1）改組に伴う部会の組織編成のあり方についてさらに検討を行った。
- 2）校歌・寮歌のホームページ上での紹介方法等について検討を行った。

- 3) こうほう支援室を立ち上げ、大学と連携・協力しながら、同窓生が各地域や職場で活躍している情報を在学生、高校生、会員等、学内外に広報する活動を開始した。

【別記5】令和4年度 事業計画

(1) 第4回定時総会の開催

令和4年6月18日（土）府中キャンパスにて第4回定時総会を開催する。議事内容は、審議事項1：議事録署名人選出（案）の件。審議事項2：定款変更（案）の件。審議事項3：令和3年度 貸借対照表（案）及び正味財産増減計算書（案）の件。報告事項①：令和3年度 事業報告の件。報告事項②：令和3年度 監査報告の件。審議事項4：選挙管理委員の選任の件。審議事項5：顧問の推挙の件。報告事項③：令和4年度 事業計画の件。報告事項④：令和4年度 収支予算の件。その他。

(2) 令和4年度各種会議の開催

令和4年5月、11月及び令和5年3月に理事会を開催する。令和4年11月に副会長懇談会・部会長会を開催する。令和4年6月に臨時支部長会、11月に支部長会を開催する。

(3) 同窓会組織の強化及び活性化

- 1) 一般社団法人にふさわしい形で、安定した運営が行えるようにするため、規則の見直しや基本財産取り崩し等の財政運営の検討を継続して行う。
- 2) 部会・支部・職域組織の同窓意識の向上と会員交流の促進を図る方策として「農工通信」を発行し、新たな試みとしてホームページを活用した情報発信を開始する。
- 3) こうほう支援室を充実させ、大学と連携・協力しながら、同窓生が各地域や職場で活躍している情報を在学生、高校生、会員等、学内外に広報する活動を行う。
- 4) 運営委員・監事・事務局長の部会・支部への派遣は新型コロナの感染状況を見ながら可能であれば行い、今まで派遣していない支部にも派遣できるようにする。大学役員の派遣依頼にも応えられるよう大学との連携を図る。また、要望があれば本学出身者以外の大学教員も派遣できるようにする。
- 5) 部会・支部活動の活性化のための支援の方策を検討する。
- 6) 引き続き、卒業生に対して、大学が発行する証明書の発行手数料を援助する。
- 7) 同好会活動の充実に努める。
- 8) 部会・支部のホームページ立ち上げに協力するとともに、同窓会WEBページにある「会員交流広場」、「ギャラリー」等の活用法及び充実について検討を重ねる。
- 9) 引き続き、入会金・賛助会費等の会費の更なる納付率向上のための方策を検討し実施する。
- 10) 歳出削減に努める。

(4) 同窓会の課題及び今後の対応

- 1) 学内外問わず、同窓会活動をご理解いただくため、同窓会紹介パンフレット（入学時及びペアレングデーにて配布）及び同窓会WEBによるPR活動に努める。
- 2) 分収林返還後の旧分収林の利用方法について、八王子市役所と協議を継続する。
- 3) 海外支部設置について、検討を引き続き行う。
- 4) 農工通信の未着信な会員について追跡の動静調査を行う。
- 5) 祝電・弔電により祝意・弔意を表す。また、本会の発展に顕著な功績があった者に感謝状を贈呈する。

(5) 準会員に対する援助、新入会員歓迎行事の継続実施

大学と協力しながら就活セミナー等の開催や同窓会推薦キャリア・アドバイザー支援の援助等を行うことで、同窓生となる準会員（学生）に対して、就職支援等の充実を図る。

準会員の勉学・学生生活に関して、学会・コンテスト・コンクール等の発表・入賞祝い、学会誌・論文誌発表等援助、優秀卒論副賞等の援助、学園祭・課外活動の援助及び卒業・修了証書カバーの贈呈を行う。

(6) その他

- 1) 総会代議員選挙を実施する。
- 2) 改組に伴う部会の組織編成のあり方についてさらに検討を行う。
- 3) 校歌・寮歌のホームページ上での紹介方法等について検討を行う。



【別記2】 貸借対照表 令和4年3月31日現在

一般社団法人 東京農工大学同窓会
一般会計

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	51,802,486	44,090,516	7,711,970
資金諸口	0	0	0
現 金	40,902	11,817	29,085
当座預金	33,909,518	31,490,806	2,418,712
普通預金	17,852,066	12,587,893	5,264,173
定期預金	0	0	0
棚卸資産	0	0	0
仮 払 金	0	0	0
内部貸借	0	0	0
仮払消費税等	0	0	0
流動資産合計	51,802,486	44,090,516	7,711,970
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	45,000,000	45,000,000	0
普通預金	770,500	226,500	544,000
投資有価証券	284,229,500	284,773,500	△ 544,000
基本財産合計	330,000,000	330,000,000	0
(2) 特定資産			
八王子分収林育成林木	0	0	0
学生援助事業積立資産	129,582,813	134,000,000	△ 4,417,187
事業維持積立資産	0	0	0
退職給付引当資産	1,394,910	1,464,310	△ 69,400
特定資産合計	130,977,723	135,464,310	△ 4,486,587
(3) その他固定資産			
什器備品	0	0	0
投資有価証券	0	0	0
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	460,977,723	465,464,310	△ 4,486,587
資産合計	512,780,209	509,554,826	3,225,383

科 目	当年度	前年度	増 減
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	0	0	0
前 受 金	0	0	0
預 り 金	119,579	73,877	45,702
仮 受 金	0	0	0
賞与引当金	0	0	0
未払法人税等	0	0	0
仮受消費税等	0	0	0
未払消費税等	0	0	0
流動負債合計	119,579	73,877	45,702
2. 固定負債			
退職給付引当金	1,394,910	1,464,310	△ 69,400
固定負債合計	1,394,910	1,464,310	△ 69,400
負債合計	1,514,489	1,538,187	△ 23,698
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄附金	129,582,813	134,000,000	△ 4,417,187
指定正味財産合計	129,582,813	134,000,000	△ 4,417,187
(うち基本財産への充当額)	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	381,682,907	374,016,639	7,666,268
(うち基本財産への充当額)	330,000,000	330,000,000	0
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
正味財産合計	511,265,720	508,016,639	3,249,081
負債及び正味財産合計	512,780,209	509,554,826	3,225,383

【別記3】 正味財産増減計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

一般社団法人 東京農工大学同窓会
一般会計

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,376,054	945,002	431,052
基本財産受取利息	1,376,054	945,002	431,052
基本財産売却益	0	0	0
運用財産収入	36,134,495	31,902,204	4,232,291
入会金	4,120,000	3,890,000	230,000
年会費	760,500	1,071,000	△ 310,500
終身会費	4,020,000	3,325,000	695,000
賛助会費	24,580,000	23,280,000	1,300,000
利息	262	238	24
寄附金	179,500	45,966	133,534
雑収入	2,474,233	290,000	2,184,233
受取寄附金振替額	5,338,731		5,338,731
繰入金	0	0	0
経常収益計	42,849,280	32,847,206	10,002,074
(2) 経常費用			
運用財産支出	28,827,371	15,326,359	13,501,012
事業費	15,204,735	5,662,885	9,541,850
動静調査費	759,784	667,498	92,286
会報発行費	9,873,128	0	9,873,128
H P 管理作成費	93,170	109,560	△ 16,390
部会・支部活動費	3,099,400	3,521,000	△ 421,600
母校援助費	0	0	0
卒業生援助費	1,140,690	1,119,527	21,163
同窓会の森管理費	0	0	0
資料整備費	238,563	245,300	△ 6,737
減価償却費	0	0	0
会議費	925,381	186,090	739,291
総会会議費	35,150	27,054	8,096
理事会会議費	111,591	109,310	2,281
副会長懇談会（部会長会）会議費	45,210	37,250	7,960
支部長会会議費	727,832	0	727,832
運営委員会会議費	5,598	12,476	△ 6,878
管理費	12,697,255	9,477,384	3,219,871
人件費	6,796,027	5,372,828	1,423,199
社会保険料等	955,177	437,709	517,468
備品費	0	0	0
消耗品費	316,341	45,743	270,598
複写機トータルサービス料	588,984	193,652	395,332
通信費	187,545	194,151	△ 6,606
旅費	145,680	30,070	115,610
事務用品印刷費	0	0	0
慶弔費	39,456	3,096	36,360
光熱水費	104,170	110,127	△ 5,957
退職給付費用	250,000	250,000	0
職員厚生費	24,000	20,000	4,000
租税公課	237,622	214,561	23,061
振込手数料	345,120	341,778	3,342
その他雑費	2,707,133	2,263,669	443,464
予備費	0	0	0
繰入金	0	0	0
特定目的事業財産支出	6,355,641	18,231,351	△ 11,875,710
八王子分収林育成事業費	0	0	0
周年記念事業費	0	0	0
学生援助事業費	5,338,731	2,552,840	2,785,891
被災会員支援事業費	0	0	0
図書等刊行事業費	0	0	0
その他本財産に適合する事業費	1,016,910	15,678,511	△ 14,661,601
経常費用計	35,183,012	33,557,710	1,625,302
評価損益等調整前当期経常増減額	7,666,268	△ 710,504	8,376,772
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	7,666,268	△ 710,504	8,376,772
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	7,666,268	△ 710,504	8,376,772
一般正味財産期首残高	374,016,639	374,727,143	△ 710,504
一般正味財産期末残高	381,682,907	374,016,639	7,666,268
II 指定正味財産増減の部			
受取寄附金	921,544	134,000,000	△ 133,078,456
八王子分収林育成林木	0	0	0
一般正味財産への振替額	△ 5,338,731	0	△ 5,338,731
受取寄附金	△ 5,338,731	0	△ 5,338,731
八王子分収林	0	0	0
当期指定正味財産増減額	△ 4,417,187	134,000,000	△ 138,417,187
指定正味財産期首残高	134,000,000	0	134,000,000
指定正味財産期末残高	129,582,813	134,000,000	△ 4,417,187
III 正味財産期末残高	511,265,720	508,016,639	3,249,081

【別記6】 令和4年度 収支予算

(単位：円)

No.	区分	細分	項 目	令和4年度 予算額①	令和3年度 予算額②	差 異 ①－②	摘 要
1	基本財産	収入	基本財産（前年度繰越金）	330,000,000	330,000,000	0	
2			余剰金からの繰入れ	0	0	0	
3			上記以外の余剰金からの繰入	0	0	0	
4			収入合計（1+2+3）	330,000,000	330,000,000	0	
5		支出	他の財産へ繰出し	0	0	0	
6			支出合計（5）	0	0	0	
7			基本財産残高（4－6）→次年度繰越金	330,000,000	330,000,000	0	
8	運用財産	収入	前年度繰越金	27,976,152	22,630,670	5,345,482	前年度の剰余金30,476,152円-① 特定目的事業財産繰入金（こうほう支援室経費として）2,500,000円-② ①30,476,152円-②2,500,000円＝27,976,152円
9			入会金	3,500,000	3,500,000	0	前年度予算と同額
10			年会費	800,000	800,000	0	前年度予算と同額
11			終身会費	2,000,000	2,000,000	0	前年度予算と同額
12			賛助会費	20,000,000	20,000,000	0	前年度予算と同額
13			利息	1,000	1,000	0	前年度予算と同額
14			寄附金	1,000	0	1,000	前年度実績を勘案
15			雑収入	2,200,000	875,000	1,325,000	合同企業説明会等収入
16			基本財産運用益	900,000	900,000	0	前年度予算と同額
17			収入合計（8～16の計）	57,378,152	50,706,670	6,671,482	
18		支出	動静調査費	600,000	600,000	0	前年度予算と同額
19			会報発行費	5,000,000	10,000,000	-5,000,000	本年度より年1回発行
20			HP管理作成費	1,100,000	600,000	500,000	同窓会誌発行が年1回になる代替措置として、HPに新たな情報提供ツールを作るための経費として本年度は500,000円追加計上する。
21			部会・支部活動費	6,300,000	6,300,000	0	前年度予算と同額
22			卒業生援助費	1,300,000	1,780,000	-480,000	前年度実績を勘案
23			同窓会の森（旧分収林）管理費	300,000	300,000	0	分収林後片づけ及び記念碑作成経費
24			資料整備費	300,000	300,000	0	前年度予算と同額
25			事業費計（18～24の計）	14,900,000	19,880,000	-4,980,000	
26			総会会議費	4,000,000	4,000,000	0	前年度予算と同額
27			理事会会議費	600,000	600,000	0	前年度予算と同額
28			副会長懇談会（部会長会）会議費	200,000	200,000	0	前年度予算と同額
29			支部長会会議費	1,600,000	0	1,600,000	本年度開催年
30			運営委員会会議費	100,000	100,000	0	前年度予算と同額
31			会議費計（26～30の計）	6,500,000	4,900,000	1,600,000	
32			人件費	7,800,000	7,800,000	0	前年度予算と同額
33			社会保険料等	950,000	860,000	90,000	前年度実績を勘案
34			備品費	200,000	200,000	0	前年度予算と同額
35			消耗品費	500,000	500,000	0	前年度予算と同額
36			複写機トータルサービス料	1,000,000	1,000,000	0	前年度予算と同額
37			通信費	250,000	250,000	0	前年度予算と同額
38			旅費	1,700,000	1,700,000	0	前年度予算と同額
39			事務用品印刷費	70,000	68,850	1,150	封筒印刷経費を想定
40			慶弔費	50,000	50,000	0	前年度予算と同額
41			光熱水費	120,000	120,000	0	前年度予算と同額
42			職員厚生費	30,000	30,000	0	前年度予算と同額
43			退職給付費用	250,000	250,000	0	前年度予算と同額
44			租税公課	200,000	150,000	50,000	前年度実績を勘案
45			振込手数料	350,000	300,000	50,000	前年度実績を勘案
46			その他雑費	22,508,152	12,647,820	9,860,332	予備費を計上しないため調整用
47			管理費計（32～46の計）	35,978,152	25,926,670	10,051,482	
48			支出合計（25+31+47）	57,378,152	50,706,670	6,671,482	
49				運用財産残高（17－48）→次年度繰越金	0	0	0
50	特定目的事業財産	収入	前年度繰越金	144,662,983	150,240,502	-5,577,519	内訳：使途指定127,921,544・その他16,741,439円
51			余剰金からの繰入	2,500,000	0	2,500,000	こうほう支援室経費として
52			上記以外の余剰金からの繰入	0	0	0	
53			収入合計（50+51+52）	147,162,983	150,240,502	-3,077,519	
54		支出	学生援助事業支出	7,000,000	7,000,000	0	前年度予算と同額
55			被災会員支援事業支出	1,000,000	0	1,000,000	本年度は予算額として1,000,000円計上。
56			こうほう支援室経費	2,500,000	0	2,500,000	業務拡大により増額
57			その他本財産に適合する事業支出	1,000,000	2,000,000	-1,000,000	昨年度はこうほう支援室経費を計上。本年度は予算額として1,000,000円計上。
58			支出合計（54～57の計）	11,500,000	9,000,000	2,500,000	
59			特定目的事業財産残高（53－58）→次年度繰越金	135,662,983	141,240,502	-5,577,519	
60	合計（7+49+59）			465,662,983	471,240,502	-5,577,519	
61	退職給付費用引当資産	収入	前年度繰越金	1,714,310	1,500,000	214,310	
62			運用財産からの繰入	250,000	250,000	0	
63			収入合計（61+62）	1,964,310	1,750,000	214,310	
64		支出	退職手当給付金	1,279,980	0	1,279,980	
65			支出合計（64）	1,279,980	0	1,279,980	
66			退職給付費用引当資産合計（63－65）	684,330	1,750,000	-1,065,670	
67	総合計（60+66）			466,347,313	472,990,502	-6,643,189	

同窓会役員等体制と支部長 及び 連絡員表

同窓会役員等体制 (第3回定時総会終了時～第5回定時総会)

会 長

五味 勝 (電子S54)

副会長

内藤 廣信 (農学S41) 農学・生物生産学部会
安藤 俊幸 (蚕糸S49) 蚕糸生物学部会
仲井まどか (植防S62) 植防・応用生物学部会
伊藤 猛 (農化S56) 農芸化学・応用生命化学部会
近江 正陽 (林産S60) 林産・生物資源工学部会
伊豆田 猛 (環保S59) 環境科学部会
本山 芳裕 (林学S48) 林学部会
大里 耕司 (農工S52) 生産環境工学部会
小池 伸介 (地生H13) 地域生態システム学部会
田谷 一善 (獣医S46) 獣医学部会
大塚 克巳 (製糸S45) 製糸・高分子・生命工学部会
千田 武 (織工S46) 繊維・有機材料部会
高野 文夫 (化工S51) 化学工学部会
前川 佳博 (工化S48) 応用分子化学部会
澤田 孚夫 (機械S40) 機械システム工学部会
竹村 淳 (電子H3) 電気電子工学部会
水野 隆司 (応物S46) 物理システム工学部会
王 大慶 (情報院H24) 情報工学部会
加藤 美治 (MOT H21) MOT部会
二見 能資 (生シ院H17) BASE部会
船田 良 (連農S63) 連合農学部会

理 事

理 事 長 桑原 利彦 (生機S57)
副理事長 戸田 浩人 (林学S59)
副理事長 野口 恵一 (材料H1)
理 事 内藤 廣信 (農学S41)
〃 安藤 俊幸 (蚕糸S49)
〃 本山 芳裕 (林学S48)
〃 千田 武 (織工S46)
〃 高野 文夫 (化工S51)
〃 加藤 美治 (MOT H21)
〃 河野 詠 (獣医S45)
〃 金本 伸郎 (農学S51)
〃 栗原 知 (林学S47)
〃 杉山 嘉英 (林学S52)
〃 三宅 信行 (環保S55)
〃 寺峰 孜 (養蚕S45)

監 事

加藤 誠 (農工S44)
鈴木 創三 (農学S47)
小林龍一郎 (電気S51)

運営委員

総務部長 千年 篤 (農学S58)
副 部 長 田中 剛 (物生H7)
副 部 長 金田 正弘 (獣医H12)
事業部長 赤井 伸行 (環資H11)
副 部 長 岡本 昭子 (応化H15)
経理部長 齊藤美佳子 (工化H1)
副 部 長 水川 薫子 (環資H18)
広報情報長 村上 尚 (応化H12)
副 部 長 滝山 博志 (化工S62)
副 部 長 岡田 洋平 (応生H19)

同窓会支部長及び連絡員 (令和4年7月1日現在)

支部名	支部長名	連絡員名
北海道	荒木 和秋 (農学S50)	本間 聡 (地生H20)
青 森	大橋 統州 (農学S54)	白石 一志 (農学H4)
秋 田	倉部 明彦 (農工S57)	畠山 欣也 (農工H8)
岩 手	深澤 光 (林学S56)	小澤 結 (環資H11)
山 形	河野 詠 (獣医S45)	川崎 聡明 (生産H9)
宮 城	鈴木 正彦 (林学S57)	大類 清和 (林学H2)
福 島	荒井 賢治 (農工S47)	三森 裕 (生産H13)
茨 城	川野 和彦 (林学S50)	磯邊 晋吾 (林学S62)
栃 木	南木 好樹 (農工S58)	篠崎 敦 (生産H18)
群 馬	山本 明 (農工S45)	影澤 圭太 (林産H3)
埼 玉	金本 伸郎 (農学S51)	竹詰 一 (農学H2)
千 葉	前之園孝光 (獣医S44)	津金 胤昭 (応生H6)
東 京	栗原 知 (林学S47)	稲田真樹子 (地生H17)
神奈川	真子 正史 (農学S41)	黒澤 晃 (農学H2)
新 潟	矢澤 正宏 (農工S44)	村山 康則 (農学H3)
富 山	小杉 啓一 (林学S54)	飯野 師 (地生H18)
石 川	坂口浩一郎 (林学S58)	濱崎 貴史 (環資H15)
福 井	野坂 雄二 (農工S53)	新海 隆介 (環・資H12)
山 梨	木村 靖郎 (林学S45)	小松澤 靖 (林学H2)
長 野	相馬 正博 (農学S53)	小板橋晴之 (地生H19)
岐 阜	工藤 正弘 (織工S44)	雨宮 功治 (植防S60)
静 岡	杉山 嘉英 (林学S52)	土屋 雄人 (応生H20)
愛 知	瀧上 紀吉 (機械S41)	山口 知幸 (農学H4)
三 重	古野 優 (獣医S60)	西野 実 (生産H7)

支部名	支部長名	連絡員名
大 阪	佐々木良和 (農工S39)	中野 淳 (機械S60)
京 都	西村 寿 (農工S50)	松井 崇 (農工S51)
滋 賀	川島 長治 (農学S39)	鈴木 一成 (地生H25)
奈 良	山本 治幸 (電気S54)	岩治 新 (地生H20)
和歌山	毛呂 眞 (林学S41)	中村 純子 (環・資H6)
兵 庫	上坂 修一 (林産S54)	安德 剛志 (林学S59)
岡 山	渡邊 直人 (林学S50)	谷 智仁 (林学S61)
広 島	三宅 信行 (環保S55)	石田 一之 (機械S59)
山 口	松村 聡 (工化S46)	岡本 賢一 (植防H4)
鳥 取	江原 宏昭 (農学院S48)	門脇 互 (製糸S54)
島 根	桑本 幸夫 (林産S56)	松浦 史瑞 (林産H1)
香 川	鳥取 康治 (織高S51)	遠藤 克彰 (機シスH24)
徳 島	長谷川 進 (工化S47)	小杉純一郎 (林学S63)
高 知	寺峰 孜 (養蚕S45)	豊田 陽一 (蚕糸S57)
愛 媛	池上 正彦 (蚕糸S52)	尾中 直道 (環・資H7)
福 岡	野上寛五郎 (林学S39)	平島 亮介 (生産H13)
佐 賀	御厨 秀樹 (植防S56)	御厨 秀樹 (植防S56)
長 崎	内山 満 (林学S49)	古賀 淳士 (農学S52)
熊 本	田中 良典 (植防S51)	永山 裕治 (環保H1)
大 分	松久 房義 (蚕糸S50)	川ノ上 実 (生産H12)
宮 崎	池田 典昭 (林学S49)	井之上英行 (農工H4)
鹿児島	二俣 文生 (農工S45)	長谷川信幸 (製糸S54)
沖 縄	糸数 剛 (農工S45)	花城 薫 (林産H3)
横濱会	草野 洋一 (養蚕S47)	向 恒雄 (製糸S46)

令和3年度 同窓会学生援助事業報告

同窓会学生援助事業では、在学生（準会員）の学会発表、コンテスト・コンクールへの出場、優秀卒業論文、種々の課外活動、学園祭に対して「同窓会研究課外活動奨励賞」および副賞を授与しています。

この事業は、会員の皆様から納入いただいた同窓会費（終身会費・年会費）や入学時に納入いただいた入会金・賛助会費を元に支出しております。令和3年度の援助金総額は3,281,260円でした。ここにご報告させていただきますとともに、厚くお礼申し上げます。

今後とも母校援助にご協力賜りますようお願い申し上げます。

事 項	件 数	金 額
学会発表 <参加・出場>	165名	825,000円
学会発表 <入賞>	29名	145,000円
コンテスト・コンクール <出場>	13団体	130,000円
コンテスト・コンクール <入賞>	5団体	25,000円
学会誌・論文誌発表	0件	0円
優秀卒業論文	10学科	100,000円
課外活動 <学園祭>	1件	100,000円
課外活動 <サークル活動>	20件	1,000,000円
課外活動 <リーダーズトレーニング>	1件	50,000円
キャリアアドバイザー支援	2名	120,000円
卒業・修了証書カバー支給	1,670名	786,260円
合 計		3,281,260円

※詳細については、同窓会ホームページ(<https://tuat-dousoukai.org/student/>)をご覧ください

＝令和3年度「同窓会研究課外活動奨励賞」受賞者のコメント＝

連合農学研究科 西子 まあやさん

この度は、同窓会より学生援助事業の奨励賞をいただき、大変感謝しております。また、農工通信にてコメントを寄せる機会をいただき、大変うれしく思います。

今回は、「第6回蚕糸・昆虫機能利用関東支部学術講演会」において、「コクヌストモドキSOD 6 遺伝子は運動神経軸索形成を制御する」という表題にて発表を行い、特別賞に選んでいただきました。受賞ならびに、同窓会より研究活動に対して評価をいただき、大変光栄に思っています。

指導教員の天竺桂弘子先生をはじめ、研究室の皆様や周囲の方々、また同窓会の皆様の支えがあってこそ、このような賞をいただくことができました。

このご支援と経験を励みにして、昆虫生理学分野の発展に微力ながら貢献できるよう、精進してまいります。



航空研究会『Anomalocaris』代表 工学部機械システム工学科3年 常川 登玄さん

この度、同窓会学生援助事業にて、同窓会研究課外活動奨励賞、及び農工通信にてコメントする機会をいただき、本当にありがとうございます。

私たち東京農工大学航空研究会は、12月に東京都大田区にて開催された「第17回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト」に出場しました。私たちのチーム「Anomalocaris」は一般部門に出場し、5連覇を達成しました。この快挙は、チームの皆の頑張りは勿論、OBOGの皆様、そして同窓会の有難いご支援が無ければ、達成することはできませんでした。航空研究会より出場し、同じく同窓会よりご支援いただいた他チームの分も含めて、この場をお借りしてお礼申し上げます。

航空研究会が出場するもう一つの大大会「種子島ロケットコンテスト」でも、同窓会より多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。今後も航空研究会は、双方の大会で皆様に誇れる成績を残せるよう、活動を続けて参ります。



お知らせ

学生援助事業（後期）募集：令和4年12月16日～令和5年1月20日（HPでご案内します）。

援助対象者 本学に在籍中の学部学生または大学院学生で下記の1または2に該当する者

1. 入学時に保護者が賛助会費を納入した者（保護者が賛助会員）
2. 終身会費または年会費を納入した者（本人が正会員）

※会費未納の方は申請前に納入してください

会員種別については、住所ラベルに「賛助会員」「正会員」等、記載されております。申請時にはご確認ください。

第64回 農工祭

府中キャンパス

11月11日金～13日日開催予定！

詳しくは 東京農工大学 農工祭 検索

部会・支部・同好会だより

部会・支部・同好会・クラス会だよりの最新情報は、同窓会ホームページに随時掲載していますので、ぜひご覧下さい。

部会だより



ご所属の部会は、卒業（修了）時の学科に基づいております。HP「部会・支部総会一覧」の下「部会一覧表」を参照ください。

生産環境工学部会

日 時 令和3年5月27日（木）～6月11日（金）（審議期間）
 実 施 事 項 生産環境工学部会総会（メール・書面での審議）
 会計報告が承認され、役員を改選した。
 幹事・報告者 帖佐 直（農工H4）

<幹事のコメント>

通常の総会および懇親会が実施できない状況が続き、部会の運営も不規則な対応が強いられた。反面、期せずして通常の総会よりも多くの方々に部会の運営状況を知ってもらう機会となり、会員から多くのメッセージを頂いた。各種活動の対面での実施が待ち遠しく、いただいた声が部会の活性化に繋がることを期待する。

獣医学部会

日 時 令和3年6月1日（火）～7月31日（土）
 参 加 人 数 165名
 実 施 事 項 獣医学部会総会（獣医学部会便り95号に案内し審議した）
 議題1：令和2年度獣医学部会事業報告並びに収支決算（案）及び監査について
 議題2：令和3年度獣医学部会事業計画並びに収支予算（案）について
 上記の議題についての賛成・反対の回答を書面にて得た。
 昭和20年卒から令和3年卒までの幅広い層から回答を得た。
 幹事・報告者 金田 正弘（獣医H12）

化学工学部会



日 時 令和4年3月29日（火）
 参 加 人 数 9名
 実 施 事 項 化学工学部会総会（化工部会総会）オンライン Zoomにて実施
 ・2021年度事業報告・決算報告および2022年度事業計画・予算案
 ・2021年度、2022年度部会推薦理事・代議員の確認
 ・会誌のオンライン化、および会費から寄付への移行
 ・部会体制変更への対応
 幹事・報告者 滝山 博志（化工S62）

<幹事のコメント>

現在、東京農工大学同窓会「化学工学部会」は“化工部会”として活動していますが、今後「化学物理工学部会」の新設に合わせて、化工部会は「化学工学部会」にその軸足を残しながら、新設された化学物理工学部会とともに活動を継続することを確認しました。それに合わせて、化工部会の機関誌である「化工部会誌」を2023年3月からはWEB化（PW付きpdf配信）し、「化学物理工学部会誌（仮称）」として新創刊させることとしました。

製糸・高分子・生命工学部会

製糸・高分子・生命工学部会総会のご連絡です。
 部会の総会を下記によりオンラインで実施します。

記

1. 日 時 令和4年11月23日（水）午前10時～11時
2. 参加方法 dousoukai2022@m2.tuat.ac.jp と gento-2014@ninus.ocn.ne.jp までお申し込み下さい。後日、ミーティングIDとパスコードを返信します。
3. 締め切り 令和4年9月30日（金）

支部だより



北海道支部



日 時 令和4年1月15日（土）
 本 部 派 遣 池谷 紀夫 前事務局長
 参 加 人 数 21名（うち、支部長含む5名は会場参加）
 実 施 事 項 北海道支部総会（WEB形式（会場から総会及び講演を配信））
 ・令和3年度事業報告、会計報告
 ・令和3年度監査報告
 ・令和4年度事業計画（案）、予算（案）
 ・ミニ講演会
 ・母校の近況
 ・近況報告等
 幹事・報告者 本間 聡（地生H20）

<幹事のコメント>

令和元年以来の会場開催を予定しておりましたが、開催直前の急激なコロナ再拡大により、急遽WEB方式での開催となりました（ゲストや支部長等が会場に集まり、ZOOMにより参加者へ配信）。総会では、事業報告や次年度の計画案が了承された後、支部会員の田中健二様より寒地土木研究所での研究内容に関して講演いただくとともに、来賓の池谷紀夫様より母校の近況についてご紹介いただきました。初のWEBを活用した総会開催でしたが、札幌の会場から遠方に居住されている方にもご参加いただき、移動の制約が生じやすい北海道において有効な方法と感じました。

埼玉県支部



日 時 令和3年12月11日(土)
開 催 場 所 さいたま市中村屋
参 加 人 数 4名
実 施 事 項 埼玉県支部総会
幹事・報告者 竹詰 一(農学H2)

<幹事のコメント>

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため、参集範囲を縮小したため、出席者は4名となりました。

総会では、令和2年度事業報告並びに決算報告、令和3年度事業計画並びに予算案について審議され承認されました。また、同窓会本部で検討されている支部活動費及び補助金についても、検討しました。

東京都支部

日 時 令和3年6月26日(土)
本 部 派 遣 池谷 紀夫 前事務局長
参 加 人 数 10名
実 施 事 項 東京都支部総会(「ZOOM」を活用してのオンラインミーティング)
1. 総会開会挨拶 2. 2020年度活動報告 3. 2020年度会計報告 4. 2021年度活動方針・オンラインにて適宜ミーティング開催・支部としての今後の同窓会の在り方 5. 池谷事務局長ご挨拶(本部派遣) 6. 参加者の自己紹介
幹事・報告者 栗原 知(林学S47)

<幹事のコメント>

COVID-19の影響でオンラインによる支部総会を開催。初めての試みでしたが計10名の参加がありました。今後の情報発信手段等について活発な意見交換が行われるとともに、気持ちも新たに皆で協力して支部の活動に取り組むという認識が共有され、今後の東京都支部の一步の前進が見受けられたと感じています。

東京都支部では、ホームページ上で、2021年から様々な方面で活動されている同窓生をご紹介します。タンポポ調査に取り組む生物の先生、競馬用靴職人、サーモンの養殖家、ワイナリーオーナーといった、バラエティに富んだ同窓生の活躍ぶりをぜひご覧ください(「会員情報ページ」のQRコードをスマートフォンで読み込むことで、該当ページが閲覧できます)。「会員情報」ページは同窓生の皆様からのご寄稿文とお写真を掲載しています。皆様からのご寄稿をお待ちしています。

【東京都支部ホームページ】
TOPページ



【東京都支部ホームページ】
会員情報ページ



新潟県支部

日 時 令和3年6月
実 施 事 項 新潟県支部総会(総会議案を文書協議(郵送・メール))
幹事・報告者 村山 康則(農学H3)

<幹事のコメント>

2年続けて文書協議となりました。

会員のみなさんに会えるよう、令和4年は懇親会が開催できる状況となっていることを期待しています。

富山県支部

日 時 令和4年3月15日(火)
実 施 事 項 会計監査

<幹事のコメント>

富山県支部では、毎年度の会計報告を議案として総会に提出し、総会出席者で承認することとしているが、新型コロナウイルス感染症の拡大により総会の開催が困難なことから、暫定的な措置として、支部長および支部代議員による会計監査を実施し、これに代えることとした。令和4年度は、令和5年3月に開催予定です。

静岡県支部

日 時 令和3年6月20日(日)
開 催 場 所 クーボール会館
本 部 派 遣 池谷 紀夫 前事務局長(ZOOM参加)
参 加 人 数 15名(うちZOOM参加3名)
実 施 事 項 静岡県支部総会
1会食 2開会 3会長挨拶杉山嘉英(林学S52)
4総会 1) 令和2年事業報告
2) 令和3年事業計画 3) その他
5 同窓会本部による大学近況報告
6 講演会 「ヒトと動物のコロナウイルスについて〜65歳の分岐点〜」
講師: 天野 弘様(獣医S53)
7 閉会
幹事・報告者 土屋 雄人(応生H20)

<幹事のコメント>

コロナ禍により延期されていた本総会は、十分なコロナウイルス感染症対策を実施した上で、全国的にも初の対面形式とウェブ形式の併用で実施しました。また、懇親会の代わりに昼食会に変更しました。池谷同窓会事務局長からリモートで大学の近況についてのお話を頂き、天野弘氏から「ヒトと動物のコロナウイルスについて〜65歳の分岐点〜」と題した時事に即したテーマをご講演頂きました。リモート参加者とともに、新規入会者も3名参加し、初めての試みでしたが、無事に開催することができました。

京都府支部

日 時 令和4年3月12日（土）
 開 催 場 所 祇園「はやかわ」
 参 加 人 数 4名
 実 施 事 項 京都府支部世話人会議
 ・令和3年度 活動実績、決算の確認
 ・令和4年度 活動計画、予算の協議
 ・本部支部長会議（12月）で議論された事項についての協議
 幹事・報告者 松井 崇（農工S51）

<幹事のコメント>

コロナの影響で2年連続して支部総会が開催できていません。新年度の支部総会開催についても、今後の状況を慎重に見極め対応していくこととしました。早く平穏な日常が戻ることを願います。

鳥取県支部

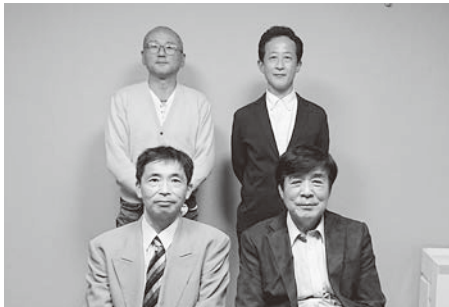
幹事・報告者 門脇 互（製糸S54）

<幹事のコメント>

毎年開催していました鳥取県支部の会員総会および懇親会につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度、3年度の開催を断念せざるを得ない状況でした。連絡員の私（門脇）が支部会員の皆様への総会中止の連絡をしないままになっていましたことを深くお詫びいたします。

コロナの状況を見ながらにはなりますが、令和4年度には開催に向けて準備して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

徳島県支部



日 時 令和3年11月6日（土）
 開 催 場 所 幸楽寿し
 本 部 派 遣 野口 恵一 先生
 参 加 人 数 4名
 実 施 事 項 徳島県支部総会
 議 事 （1）収支報告（2）東京農工大学基金への寄付について
 幹事・報告者 小杉 純一郎（林学S63）

<幹事のコメント>

今年は野口恵一先生にご参加いただき、大学の近況などについて教えていただきました。農学部本館の耐震改修とともに、外壁や講堂の内装が一新され、それ以来、ドラマや映画のロケに利用されることが、以前にも増して多くなったそうです。

また、コロナ禍で困窮している現役学生の支援のために、当支部から10万円を寄付することを決定しました。

懇親会では大学時代の思い出や皆さんの近況などで話が弾み、楽しく有意義な同窓会になりました。

長崎県支部

日 時 令和3年6月
 【議案送付:7日（月）、回答返信期限:30日（水）】
 参 加 人 数 長崎県支部総会（書面決議方式）
 議案送付全会員72名、決議書（回答）返信会員44名
 実 施 事 項 書面総会
 《審議議案》
 第1号議案:令和1～2年度活動実績及び収支決算の報告について
 第2号議案:支部規約（改正案）承認の件
 第3号議案:令和3年度活動計画（案）及び収支計画（案）承認の件
 第4号議案:令和3年度支部役員（案）承認の件
 《報告事項》支部積立金・運用状況
 《連絡事項》農工通信102号寄稿募集
 幹事・報告者 古賀 淳士（農学S52）

<幹事のコメント>

長崎県支部は2年間を活動単位とし、今年が総会開催年でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため役員で協議し、書面決議方式で開催しました。

議案には、新型コロナウイルス発生等の緊急時を想定した支部規約改正（書面総会の位置付け&活動期間1年短縮）を加えて提案し、全議案を承認頂きました。

その賛否回答結果に、返信会員の近況報告等を添えて、支部通信R3夏号を作成し、全会員に送付報告しました。来年度は集合総会と交流会が開催できることを願っております。

宮崎県支部

日 時 令和4年3月6日（日）（書面郵送日）
 参 加 人 数 36名（書面送付）
 実 施 事 項 宮崎県支部総会（書面議決）
 第1号議案 令和2年度事業実績及び会計報告（令和2年度会計監査報告）
 第2号議案 令和3年度事業計画及び収支予算案
 第3号議案 役員選出
 幹事・報告者 井之上 英行（農工H4）

<幹事のコメント>

コロナ禍の中、令和3年度の支部総会は、開催を模索していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため書面議決としました。会員に総会資料を送付し承認いただきました。来年度は総会が開催できることを切に願っております。

同好会だより



「同好会」登録のお誘い

多くの同窓生の皆様は、クラブ活動OB会・企業内同窓会・同好のサークル等の活動を通じて交流を深めていらっしゃると思います。同窓会ではこういった活動を支援しています。「同好会」として登録及び毎年の活動報告をしていただくと、年間2万円の活動費を支援いたします。また、「農工通信」や「同窓会ホームページ」で活動を報告して交流の輪を広げようと考えています。同好会の登録をしてさらなる活動につなげてみませんか。詳しくは同窓会HPをご覧ください。

NEW

東京農工大学馬術部・後援会

馬術部・後援会長 大島 誠之助（農化S43）

馬術部・後援会は、令和3年10月に同好会に加えて頂きました。同会の一員としても頑張りたいと思います。

馬術部は、馬の飼育や競技出場を通して人物の陶冶を旨としています。ただ、競技出場のための多額の年間予算を必要とします。終戦直後には経済的困窮は特に酷く、昭和29年に当時の卒業生が馬術部・交友会を発足させました。昭和40年には、東京帝国大学農学部実科時代と東京高等農林学校・東京農林専門学校時代の卒業生にも会員を広げ、「馬術部・後援会」に衣替えさせました。今年は交友会発足68年、後援会発足57年です。現会員数は約400名、最年長は昭和10年代の卒業生です。

本会の目的は、馬術部員に対する学生馬術大会への出場と勉学の両立のための経済的支援です。これ迄に、部の運営費補助に加えて馬運車2台、馬場や馬場坪の修理、馬場整備のトラクタ等の寄贈等を行ってきました。また、新馬の寄贈等にも尽力しております。

馬術部の学生達は、厳しい部活動を通して強いチームワークで「学生馬術界に農工大あり」と存在感を顕しております。令和3年度全日本学生馬術大会・総合競技では、団体7位入賞を勝ち取りました。

馬術部の歴史では、記憶に残る人と馬がおります。ノーベル賞候補者の大野乾氏（獣畜S24）。日本中央競馬会（JRA）調教師で、アパパネ号、アーモンドアイ号で牝馬三冠を2回達成等、大活躍中の國枝栄氏（獣医S53）。通算200勝、文筆家としても著名なJRA調教師の小檜山悟氏（蚕糸S52）。芝浦屠場で命を救われた農耕馬で、上皇陛下御成婚の御者・卯月貞藤先生の調教を受け、昭和41年東都学生自馬大会・大障害飛越の優勝馬。この優勝で「恩返しをした馬」としてテレビ局生出演や当時の部員が執筆した記事「駄馬幸早号の栄冠」が文藝春秋誌に掲載されてマスコミの寵児になった乗馬「幸早号」等々。

馬術部の競技成績では、創部以来の夢であった全日本学生馬術大会の団体準優勝（S37）、団体優勝（S40）を達成、国体、関東・全日本の試合で個人優勝や上位入賞。また、日本代表選手として海外へ遠征した選手も多数輩出しております。

今後は、同好会員の皆様との交流を期待しております。宜しくお願い申し上げます。

地域再生・地域活性化に東京農工大学の知的資源を活かすネットワーク

◇オンラインセミナーの開催

- 1) 日時：2021年6月19日（土）
- 2) 講師：上田 勉（農工S46）
- 3) 講演題目：福島からの報告―復興とはいったい何なのか？（講演概要）

「東日本大震災と福島第一原発事故からまる10年、双葉郡では、今なお7市町村に帰還困難区域があって、約3万5千人が避難生活を余儀なくされている。原発事故からの復興とはいったい何なのか？このことについて、皆さんと考えてみたい。そして、将来の展望について語り合えればと思います。」

報告者 淵野 雄二郎（農学S43）

東京農工大学技術士会



定期総会ならびに技術経歴発表会を2022年1月22日にウェブ上で開催した（参加人数：24名、委任状16名）。発表者と演題は次の通り：講演①「技術活動の経験から、いくつかの事例を報告」（細谷昌宏）、講演②「サクラの分類とソメイヨシノ」（鈴木輝征）。昨年度と同人数の参加となり、COVID-19の収束が見通せない中、オンラインによる総会や講演会の定着と、遠隔地からも気軽に参加できるようになったことがうかがわれた。

報告者 東田 英毅（生命博H19）

イノベーション研究会



日 時 令和3年6月26日（土） 13:00～16:00

開 催 場 所 Zoom開催
（但し、事務局は50周年記念ホールに置く）

参 加 人 数 45名

実 施 事 項 ～新型コロナウイルス「COVID-19」最先端学術研究～

第1部 基調講演

「新型コロナウイルスを制するための正しい知識（総論）」

講師：水谷哲也氏（農学部附属感染症未来疫学研究センター長・教授）

第2部 専門講演

「新型コロナウイルスの感染を阻害する物質の探索」

講師：大場真己氏（農学部附属感染症未来疫学研究センター・特任准教授）

「気相中のウイルスを検出する新技術の開発」

講師：池袋一典氏（工学研究院 生命機能科学部門・教授）

第3部 質疑応答・補足

モデレータ：大谷明子氏（農学部附属感染症未来疫学研究センター）

報 告 者 稲田 真樹子（地生H17、自然院H19）

<幹事のコメント>

「ウイルスと細菌の違いとは？」という誰もが一度は疑問に思う基礎的な話から、専門的な最先端の新型コロナウイルス学術研究までという幅広い話題の講演に、視聴者からの質問も多数寄せられました。

農工支援ネットワーク（令和3年3月31日）、農工大グローバル・コミュニケーション部会（令和4年5月28日）は解散しました。

叙勲受章にあたり

令和3年 春の叙勲

叙勲綬章にあたり

伊東 正安（名誉教授）

令和3年春に瑞宝中綬章を頂きました。誠に光栄です。東京農工大学はじめ、教職員、学生諸氏及び学界の長年に亘るご支援とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

5月28日予定の叙勲伝達式は、新型コロナウイルス禍で中止になり大学から手渡されました。来し方行く末に思いを巡らし、感慨深く拝受致した次第です。

私は昭和48年アメリカ合衆国イリノイ大学大学院博士課程（電気工学専攻）を修了し、昭和49年工学部に新設された電子工学科電子回路講座に赴任致しました。真新しい5号館（電子棟）に3年生を迎えた年です。私の専門は回路やネットワークシステムに関するグラフ理論でした。電子回路にはハードとソフトの両方を含むシステムが基礎であると考え、ほぼ同時期に着任された伊藤教授と一緒にデジタル式の超音波診断装置の研究にも着手しました。

電子工学科修士課程設置、その後の電子情報工学専攻の修士・博士課程設置に伴い、情報関連領域を拡充し、回路システム・ネットワーク、超音波診断システム、超音波信号・画像処理などが研究室の主な研究分野になりました。

回路ではグラフ理論と位相幾何学情報を利用したプリント基板の欠陥検出手法で特許を取得し、図面の認識や部品配置を含むプリント基板設計手法の研究と応用の両立に努めました。また超音波を用い生体組織を3次元的に観察できる装置の開発を行い、工学系学会の他に医学会にも討論の場を広めることができ、超音波医学会では超音波医用機器や用語及び安全性関連業務をまとめ、評議

員、副理事長や学術集会会長を務めました。回路・機器システムの設計や超音波画像処理と生体組織性状の特徴抽出手法の開発には、修士・博士課程の院生と卒研究生が一体となり境界領域を含む広範な研究を推進してくれました。

学内では電子情報工学科長、電気電子工学科長、電子情報工学専攻主任、附属図書館工学部分館長などを務めました。業界では産業技術研究開発業務に係わる基本計画案の策定や診断・治療システム技術評価および開発に関するまとめ役をしました。

農工大退官後は東京電機大学理工学部の特任教授になり再度学生諸氏と研究を続けることができ、共同開発プロジェクトなどを通し、農工大在任中と同様多くの方と交流出来た喜びがあります。電機大退職後にはコンピュータサイエンスと応用数学に関する国際科学会議でカザフスタンに招待され講演したことが国際学会活動として最後の思い出になりました。

現在の趣味は鳥や花を観察する野山の散策です。近くの川で長年観察してきたカワセミの写真集を最近出版しました。

幼少期の戦争恐怖と戦後の荒廃・復興を見て、自然を含む共生と平和こそが仕事や生活のすべての礎であるというのがこれまでの人生の実感です。

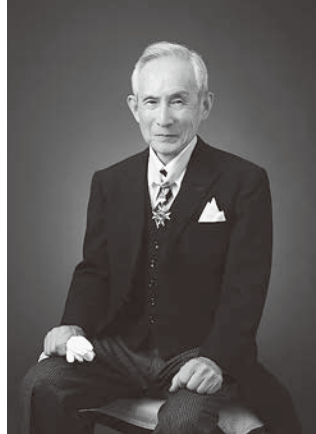
終わりに東京農工大学、同窓会、同窓生皆様のご発展をお祈り申し上げます。



瑞宝中綬章を受章して

澤田 ^{たか お} 孚夫 (機械S40・名誉教授)

令和3年春の叙勲瑞宝中綬章の報を大学から伝えられたとき、大変驚きました。私の立派な恩師の先生方が受けられていて、私には無関係と思っていたからです。身に余る光栄を受けましたが、これも偏に今までお世話になった先生方、仕事に関係してきた学会と企業の方、卒業生など多くの方々のお蔭と感謝しております。



私は本学の繊維学部に入學し、2年目に名称変更があり工学部の学生となりました。自動車部に入って学内を運転練習場にし、ポンコツの米車で三陸海岸を含めた東北、四国遠征で大いに楽しみました。卒業後東京大学大学院博士課程に進み、修了後茨城大学を経て本学に移りました。定年を迎えた後の埼玉工業大学も含め、学生さんとの長い付き合いをしました。

本学での研究は、自動車ボディーなどの塑性加工に関連する材料の変形・強度試験を主とし、イメージセンサカメラを用いた画像解析を取り込んだ変形計測、有限要素法・境界要素法のプログラミングと数値解析を行ってきました。

当時の研究室の学生さんは皆素晴らしい力を持っていて、研究では大変な助けとなりました。そして卒業生、大学院修了生、博士課程修了生約250余名が巣立ちました。中には研究職を続ける方々も居られ、現在も本学の活躍に貢献し、世界に羽ばたいている方に誇りを感じています。反面、研究テーマにあわなかったり、期待する結果が得られなかった学生さんも居られ、今でも反省の念が絶えません。

研究では納得のゆくまで解析できていつの間にか退職を迎えた感が強いです。数値解析はその後も続けており、プログラミングの扱いでは在職当時の同僚にお世話になっています。一方、目にした新しい現象に夢中になることが出来る幸せを、

強く感じています。

退職後、本学の博士課程設置までの諸先生方の記録を、「工学部小金井キャンパス120年史」にまとめました。その後創基140年にわたって遺された資料をようやく片付ける環境となり、資料を初めて登録し整理する作業に携わっています。検索機能が優れたソフト（Access）を作成してくださる同僚が居られるからです。本学発祥となった養蚕・製糸の関係から、昭憲皇太后、貞明皇太后陛下の史料や写真などがあり、宮内庁・明治神宮からも借用に來ます。私たち世代の仕事を引継いでくださる方が居られることを、工学府史料編纂小委員会委員として願っています。

この合間に、私は高齢の方々に太極拳をリードしています。自身としては深い呼吸と癒すメロディーにあわせ、ゆったりしたバランスよい運動をするよう目指しています。この場を借りて、今までお世話になった多くの方々、長らくご無沙汰している卒業生の皆様にお礼とご報告をさせていただきます。

叙勲受章にあたり

高木 隆司 (名誉教授)

私は、昭和44年3月に東京大学理学部物理学科の博士課程を修了し、同年5月1日付で東京農工大学の工学部に専任講師として採用されました。平成16年3月に定年退職するまでの35年間、東京農工大学ひとすじで通したことになります。

その後、神戸芸術工科大学に再就職し、芸術系の学生に対して数式を使わない方法で自然現象のおもしろさを伝えるような授業をおこないました。数式を使わないかぎり美術系の学生もついてきます。4年後の平成20年にそこも退職し、現在は武蔵野美術大学で非常勤講師として同様の授業を担当しております。

今思い返せば、大学院を修了した直後では、大学での教育や研究をおこなう際の心得を十分に身につけていなかったように思います。授業を行いながら、自分がその内容を十分理解していないことに気がつき、すぐ調べなおしたこともありました。また、研究面での経験不足を実感し、他大

学や研究施設でのゼミナールに参加しました。例えば、博士課程で在籍した今井研究室（流体力学）、東京都立大学の岡研究室（生体内物理学）、宇宙航空研究所の佐藤研究室（航空力学）などです。これらの多彩な研究室に出入りして気がついたことは、科学研究における価値観、問題意識、研究方法の発想などが、分野によって異なるということでした。このことは、後になって「形の科学会」という組織を同志とともに立ち上げた際に、大いに参考になりました。

「形の科学」とは、文字通り物体や組織の形状そのものを追及する学問です。このような学問は、昔から数学の中で「幾何学」として発達していましたが、幾何学では自然界の形をあまり意識しません。形の科学を最初に提案したのは、18～19世紀に活躍した文豪のゲーテです。彼は、自然界の形を追及する分野として「形態学」という名称を提案しました。同様の発想が20世紀初頭のウェーゲナーの大陸移動説、ダーシー・トムソンの著書「On Growth and Form」などに引き継がれました。この著書は、私を含む数人の仲間によって和訳されました。これらの刺激を受けて、日本でも「形の科学会」が発足したわけです。

私にとっても、この活動は大きな刺激になり、柔軟な発想を可能にしてくれたように思います。また、大学での仕事以外にも、共通一次試験の出題、科学研究補助金の審査、宇宙開発機構などの政府系の仕事にもかかわりました。私がそれに対応できたのは、形の科学にかかわったためではないかと思っています。



註：ここに示した写真の右側は、私が描いた2つの原爆の雲です。その上側は、5歳の私が疎開先の熊野町から山越しに見たものです（これは私の原風

景です）。下側は、20年以上前にアメリカのスミソニアン博物館で開かれた原爆展で見たもので、戦闘機の側から撮影したものです（感無量でした）。

受章の報告

長谷川 正（名誉教授）

春の叙勲にあたり、令和3年4月29日に瑞宝中綬章を受章しました。昨年同様本年も宮中伝達式はなく、ご推薦いただいた東京農工大学を通して勲記、勲章を受け取りました。以下に私の教育研究生生活の概略を記し、貴同窓会の会誌への寄稿文といたします。

私の研究生生活は東北大学工学部金属工学科金属強度学講座での卒業研究で始まりました。“金属の強度と組織との関連性”という構造用材料にとって中心となる大きなテーマの一部を任された緊張と嬉しさで、気力一杯で研究に取り組みました。1963年3月に学部を卒業後、“高温変形強度と組織”をテーマに大学院へ進学、1965年3月に修士課程修了、1968年3月に博士課程を単位取得満期退学、翌1969年2月に工博の学位を取得しました。退学後助手に採用され、助教授を経て1972年10月に東京農工大学へ配置換となりました。

工学部機械工学科機械材料学研究室へ着任後は、機械材料学の基礎と応用を犬養健教授と分担して講義しました。研究には新たに八高隆雄技官（当時24才）が加わりました。“応力反転に伴う変形挙動と転位組織変化”をテーマに、活気溢れる学生諸君を巻き込んで実験を進めました。8年後には八高氏は東北大学で工博の学位を得ました。論文博士としては32才という異例の若さでした。彼はその後切削の分野へ進み、助手に昇任後助教授として横浜国立大学へ転出、現在も名誉教授として広く活躍中です。私も1977年10月から1年半米国アルゴンヌ国立研究所に客員研究員として、1981年4月から1年10ヶ月西独エアランゲン大学にフンボルト給費研究員として滞在しました。長く外国留学を認めて下さった犬養教授や当時の先生方に感謝しております。1984年教授に昇任後は、“耐熱鋼の高温き裂伝播”、“微細結晶粒合金の彫塑性発現”を中心テーマに、安野拓也助手（現、いわき明星大学教

授)や森田剛助手(現、千葉大学准教授)も加わって研究を進め、2004年3月に定年退官しました。

東京農工大学での30年間をととても充実して過ごしました。闊達な研究環境を整えて下さった先輩同僚の先生方、共に苦しみ喜んだ共同研究の先生方、そしていつも新鮮で活発であった学生諸君に感謝します。最後に貴同窓会のますますのご発展を祈ります。



叙勲受章にあたり

脇田 久伸 (工化S41)

令和3年春の叙勲で瑞寶中綬章を授与されました。長年勤務した福岡大学より推薦されたものです。福岡大学の卒業生や同僚、所属学会等の関係者から喜んで頂きました。

私は農工大工学部工業化学科を1966年(昭和41年)卒業しました。卒論の指導教官阿部修治先生から「石灰岩中の微量マンガンの状態分析の研究」をテーマとして与えられ研究への興味が湧き卒業後、阿部先生のご推薦で東大教養学部化学教室の研究生になりました。そこで指導教官の綿抜邦彦先生から東京教育大学大学院理学研究科修士課程化学専攻の受験を勧められました。運よく合格し分析化学講座の長島弘三教授に指導され希土類元素鉱物の全分析と蛍光X線分析を行いました。博士課程に進学し「希土類元素炭酸塩の合成的研究」で1972年3月理学博士号を得ました。長島先



生のご推薦で同年4月に福岡大学に理学部講師として赴任、1975年に助教授に昇進しました。着任時の津曲直臣教授が病死され、阪大工学部から増田勲教授が赴任されて来ました。増田先生は錯体化学が専門で、その仕事とマッチさせるべく溶液中の錯イオン・分子のX線構造解析を始めました。この研究の論文調査でスウェーデン王立工大のジョージ・ヨハンソン教授の研究を知り、解析プログラムを購入、さらにこの方面で活躍されていた東工大の大瀧仁志教授にもご教授を頂き、研究を始めてから3年後に論文ができました。その論文をヨハンソン先生に大瀧先生の推薦状を付けて送ったところ博士研究員として招聘されました。1年間ストックホルムで研究に没頭し、その成果を3つの論文として纏めました。帰国後間もなく増田先生が病死され、急遽教授に昇進しました。その後は二人の助手さん、多くの学生、院生の奮闘を得て270ほどの論文・著書を出しました。そして所属する日本分析化学会から「新規X線分析装置の開発とこれを用いる溶存金属イオンの局所構造と電子状態の研究」で学会賞、DV-X α 研究協会から協会賞と功績賞を授与されました。その間、福岡大学では学部長、研究科長、総合研究所長、理事、評議員などを、学会では日本分析化学会副会長、同監事、DV-X α 研究協会会長、X線分析研究懇談会運営委員長などを務めました。そして2021年春には冒頭に書いた叙勲を、秋には日本分析化学会と錯体化学会からそれぞれ名誉会員推戴の栄誉を得ました。これらの栄誉は同僚、先輩の諸先生のご支援、そして何よりも学生、院生諸君の奮闘の成果です。ここで改めて感謝申し上げたいと思います。この道に入る機会を与えて頂いた阿部先生に深く感謝いたしております。福岡で開催された同窓会で農工大の若い先生方が素晴らしい研究をされていることを知り、大変喜んでいます。同窓会の皆様もご活躍のことでしょう。後に続く後輩のためにも農工大の評価アップにつながる仕事をつづけたいものと思っています。

お名前の五十音順に掲載しています。

退職にあたり

農学研究院教授 | 酒井 憲司



1996年3月1日に北大から着任しました。3月4日の最後の教授会は、東京高等農林学校の第1回から数えて1229回目でした。大久保利通公碑には圧倒されました。新政府の首班として、国家事業として設立する本邦初の高等教育機関を「農学校」としたことは、西欧の学問的伝統からは全く逸脱しています。しかし、岩倉使節団副使としてカリフォルニア農業大学の農芸化学実験室を最初の訪問先に選び、世界の大学と“文明”を回覧し、その後の国の発展を合わせて考えれば、これは、世界の今日と将来について思いを巡らすとき、重要な気付きを与えてくれるアイコンだと思います。開基自体がイノベーションであった本学は、常に、時代の先を行く教育制度を実践しています。私の専門分野は農業工学ですが、指導教員とは異なる分野を学んだ学生さんも配属できる履修制度のおかげで、教育研究分野の幅を広げることができ、カオス農学をAgrochaologyとも命名できました。そのようなキャンパスで26年間勤務し36年の学究生活を全うすることが叶いました。望外の幸せです。同窓会と会員の方々に心より感謝申し上げ、皆様の今後の益々のご発展をお祈りいたします。

農学研究院教授 | 佐藤 令一（植防S54）



私は本学に31年間お世話になりました。民間企業から助手として帰ってきた時の主要な思いは「博士課程ができた農工大で一流の研究開発者の育成を手助けしたい」でしたが、結果は上々だったと思います。基本的にスタッフが自身一人だけのラボを構え、博士18名、修士99名、学士69名を輩出し、それぞれの皆さん

は様々な分野で大活躍しています。先日、とある大学の先生が「国内外の学会でいつも多数の学生とがやがやディスカッションしていた」とうちのラボを象徴する雰囲気語ってくださいました。私自身は至らないことだらけだったのですが、学生さんたちのエネルギーのお陰で、傍からはこのように見えるアクティブな研究教育活動が出来たようです。今後は、これら卒業生の皆さんの益々の活躍を見たいとの思いで一杯です。また、そんなエネルギーな学生さんたちをラボに送り込んでくださった農学部基盤教育に関わった全ての方々に感謝しています。

農学研究院教授 | 柴田 秀史（獣医S54）



1975年本学獣医学科1年生の時、生物学の講義で、先生がニューロンの模式図を描かれ、「樹状突起」と記した脇に「dendrite」と英語名を書かれました。それまで英語の用語は考えたこともなく、その存在に大変驚きました。2年生の解剖学の講義では脳の構造が説明され、海馬、赤核、黒質といった想像もしていなかった名称の構造が存在することを初めて知って、さらに面白いと思いました。大学入学前から漠然と動物系の基礎研究をやってみたいと思っており、臓器や細胞を直接自分の目で観察出来る解剖学が自分に向いていると感じて、解剖学の研究に進み、気がついたら40年以上経っていました。解剖学は、本来、博物学的な記載科学であり、国立大学法人化後、強く推奨されている産学協同、特許、研究成果の製品化等には馴染みません。それにも係わらず定年まで解剖学の研究を続けて来られたのは、諸先生方や事務職員の皆様にご理解、サポート頂いたお蔭だと思います。長い間大変ありがとうございました。

退職のご挨拶

農学研究院教授 | 東城 清秀 (農工 S54)



この2年程は新型コロナウイルス感染症で振り回されてきましたが、桜咲く季節に無事退職の日を迎えられたことは、皆様のご支援のお陰であり、ここに深く感謝申し上げます。

私は1984年3月1日の着任で、農工大には38年間お世話になりました。着任時は、連合大学院の設置準備が進められていて、いよいよ農工大が博士を輩出するのだという高揚感がありました。その後は、学部改組、大学法人化と目まぐるしく体制が変わり、研究重視の大学へと変容しました。しかし、変わらなかったのは、本学学生の気質のように思います。それが伝統なのか、よく分からないのですが、流行のことには無頓着で、研究に対する真摯な姿勢に大いに救われたように感じています。

私の研究は、農業生産や食品加工の過程で生じる廃棄物の再資源化と循環利用が中心でした。農業工学分野の主流の研究ではなかったですが、興味をもつ学生と一緒に調査に行ったり、圃場で実験できたことは本当に幸せでした。主流ではないので専攻学生の就職が心配でしたが、学生はしっかり職を探しだし、今は中核として活躍しているのを知り、安堵しています。農業工学は裾野の広い学術分野ですので、その総合力と実践力が期待されているのだと思っています。

末筆となりましたが、同窓の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念申し上げて、退職のご挨拶とさせていただきます。

農学研究院教授 | 夏目 雅裕



1991年4月に本学に着任して以来、毎年新しい学生を受け入れて、卒論生、修論生それぞれ約60名、課程博士学生4名を送り出してきました。毎年、年末が近づくと、あのテーマはこうしておけば良かった・あれをしておけば良かったと後悔・反省し、卒論や修論の発表会が終わると、翌年度はどうしようかと悩みつつも新

たな展開を期待してワクワクすることを繰り返してきて、退職に際して振り返ってみると、30年も経ったのか、というのが素直な感想です。

研究テーマによって、目論見通りに研究が進んだ学生もいれば、期待した結果が得られず試行錯誤の繰り返しで卒業・修了していった学生もいました。私としてはその時に感じたこと・考えたことを正直に話して、一緒に議論をして解決方法を模索してきたと思っていますので、研究室での経験がたとえ思わしくない結果だったとしても、後々よかったと思ってくれることがあれば、嬉しい限りです。

私は有機化学I、物理化学B、農薬化学、機器分析化学などの講義を担当しましたが、教え授けるというより、自分自身が勉強し直してより理解を深め、そのプロセスを話すことで何が重要か、どのように理解すれば良いかを説いてきたつもりです。講義をすることを通して、改めて、知ることの楽しさを感じることができました。

研究費は必ずしも潤沢ではありませんでしたが、自分の思い通りに研究をさせていただき、勉強する機会を与えてくれた農工大に改めて感謝するとともに、卒業生の皆さんが農工大での経験を活かして社会で大いに活躍されることを祈念しております。

農学研究院教授 | 野見山 敏雄



本学で30年間、同僚の教員や職員の皆さまにはお世話になりました。心から感謝申し上げます。前職は福岡県農業総合試験場で経営研究を行っていました。試験研究機関と大学の違いは学生への教育が本分であることです。

学生と一緒にに行った調査研究が自らの研究に大きなヒントを与えてくれました。本学の学生諸君はみな能力が高く、「一を聞いて十を知る」学生ばかりでした。彼らとのつながりは今も私の財産となっています。

私は仕事柄、国や地方自治体等の審議会や共同研究に参加してきました。そこで知り合った方々をキーパーソンにして、学生の論文研究の端緒を作ることも多くありました。私の研究分野の農業市場学は、人と人、人と資源、人と商品に関する研究です。退職後はフィールドを地元福岡に移して、社会貢献が出来れば良いと思っています。いま、人口減少下の大学間競争時代に突入していますが、皆で知

恵を出し合い本学が発展することを祈っています。

農学研究院教授 | 渡辺 元 (獣医 S54)



2022年3月末をもちまして無事定年退職いたしました。40年間多くの方に助けていただきました。心より御礼申し上げます。

大学生時代にお世話になった研究室に、助手として勤務できたことはとても幸運だったと思います。

当時、家畜生理学研究室には笹本修司教授、田谷一善助教授がいらっしゃる、この幸運に甘んじることなく、常に新しいことにチャレンジできるよう見聞を広げて来いと、1985年7月から1987年7月までの2年間、アメリカ・ウイスコンシン州立大学・霊長類研究所に行かせていただきました。この時の経験がその後の研究室の国際化に大きく役に立ったことは間違いありません。

本学の学生は、能力は高いが、少々引っ込み思案なところがあると感じている方も多いと思います。可能性を潰さないで、学生の能力をいかに伸ばすかがとても大事だと考えて勤めてきました。今後も本学が、実学に根ざした多くの優れた人材を世に送り出すことを期待しております。

工学研究院教授 | 伊東 道生



大阪大学文学部から本学に着任したのは、「2000年問題」が取り沙汰されていた1999年の10月でした。当初の配属は、情報コミュニケーション工学科の言語文化科学 (SF) コースで、第二外国語 (ドイツ語) とともに、この

コースで2001年から2008年にわたって修士を含む卒研究生数名の担当をしました。語学の教員がまわって学生を指導したのですが、研究室の壁を越えて合同勉強会を行ったり、当時のまだ和やかな風潮のなか、学生共々飲みに行ったりもしました。育った学生は工学系だけでなく、さまざまな領域に就職していったことは嬉しい思い出です。組織替えの後は、機械システム工学専攻に所属し、卒研究生はもたなかったのですが、農学部と工学部で、ドイツ語を22年余り教え続けたため、授業を受けた学

生数はかなりの数になり、大学外の委員会などで、思わぬかたちで出会うことがままあります。これから数年間は、それも楽しみにしています。

工学研究院教授 | 宇野 亨 (電気 S55)



1994年4月に本学に赴任し、本年3月に定年退職致しました。前任地での9年を含めると37年間の大学教員生活でありました。専門は電気電子工学でワイヤレス通信とその関連分野を主な研究分野として教育・研究に当たっ

てまいりましたが、赴任当初は科研費の下で遺跡探査用レーダの開発を行っていましたし、その後は電磁環境計測や計算電磁気学を研究の中心に据えておりましたので、ワイヤレス通信というよりはむしろ関連分野の方に多くの時間を割いているような状況でありました。しかしながら、卒業生の多くはワイヤレス通信分野で活躍しているようですし、私自身も関連学会等で多くの委員を務めましたので、我が国のワイヤレス通信分野に僅かながらでも貢献できたのではないかと考えています。

37年間を振り返ると吐きそうになる位忙しい時期もありましたが、何もかもが良い思い出ですし、つくづく優秀なスタッフと良き友人に恵まれた幸せな教員生活であったと思っています。ありがとうございました。心残りは何度でも読み返したいと思われる痺れる教科書あるいは論文を書けなかったことですが、幸い国内外の出版社からの執筆依頼もありますし、時間も十分頂けるようですので今後はこれに注力したいと思っています。

最後に、同窓生諸氏のご健勝とご活躍を心よりお祈りすると共に本学の益々の発展を期待しております。

工学研究院教授 | 小関 良宏



農工大にお世話になって26年間、大変にお世話になりました。その間、国立大学から大学法人への転換があり、大きな変革を経験しました。転換当時は何とか軟着陸したと思えたのですが、そこから中期計画に縛られる形

になり、それまでの国立大学時代には安穏とした生活をしていたのが、研究を進めて成果を出すとともに、外部資金を獲得することに注力しなければならぬ時代に大きく変わったと思います。今後はそこに学生数が減ることが大きく響いてくる時代になると思います。そこでは、優れた研究成果を出すだけでなく、優秀な学生さんを集めることが重要になり、それがさらなる研究の進展につながると思います。そのために研究と教育の両輪がバランスよく回転をしていく必要があるかと思っています。今後の農工大がこの両輪がさらなる好回転をしていくことを心より願っております。

工学研究院教授 | 田中 幸夫



昭和60年に農工大学に赴任し、令和4年3月に定年退職するまで、37年間、体育教員として勤められたことは、教員、事務、学生の皆様の支援の賜物と心から感謝しています。

私は「生きているとは？」ということに興味を持ち研究して来ました。今もってその答えは見出せないのですが、生命維持ための呼吸と循環、武道や身体運動を支える気（力）とパフォーマンスについて研究して来ました。そこから心身一如、身体と精神の協調がとても重要であると確信するに至りました。

成果を基に、公開講座「リフレッシュ呼吸法」を20数年に渡り実施し、2012年に朝日新聞に「呼吸法」の記事が掲載され、農工大の認知度が上がったと自画自賛しています。

また、体育の授業で、さらに剣道部、弓道部、

硬式野球部、陸上部の顧問として数多の学生、OBと接し、楽しく有意義な交流を持つことができ、嬉しく思っています。

最後に、農工大の益々の発展と皆様の健康を祈念して、退職の言葉といたします。

工学研究院教授 | 長坂 研



1998年にそれまで勤務していた東京都立大学を退職し、東京農工大学大学院工学研究科の助教授として着任しました。その後の学科改組と職位の呼称変更などを経て、2013年に教授に昇格し、2022年3月末に東京農工大

工学研究院を定年退職するまで電気電子工学（特に、環境エネルギー工学）の教育・研究に努めていました。主指導教員として、東京農工大学のみでは博士21名、修士108名、学士130名の論文指導を行ってきました。東京農工大学で行った研究の中で最も誇りと思っているのは、再生可能なエネルギー分野で日本初あるいは世界初と言われている「未来風船型風車の研究開発」および「洋上風力発電と海流発電の統合化」であり、電力・エネルギー分野の進歩発展に貢献できたと自負しております。

本年の4月からある研究所での再就職が決定され、引き続き今まで行ってきた再生可能なエネルギーおよびスマートグリッドなどの研究を生かして実規模の実用化を目指していきたいと考えております。

最後に、大変お世話になった東京農工大学にお礼を申し上げますとともに皆様のますますの発展を心よりお祈り申し上げます。

定年退職者のお知らせ

本学在学中に同窓会活動に多大なご協力をいただいた下記の先生方が、令和5年3月で定年を迎えられます。

佐藤 敬一 農学研究院 准教授
竹原 一明 農学研究院 教授
西河 淳 農学研究院 教授
蓮見 恵司 農学研究院 教授
渡邊 司 農学研究院 准教授

木幡 幸弘 工学府 教授
臼井 博明 工学研究院 教授
森 祐希子 工学研究院 教授
山崎 孝 工学研究院 教授

(五十音順：氏名掲載はご本人の了解を得ている方のみです)

同窓生からの寄稿文

農工大への支援に期待

深水 智明（繊維工学科S38）

農工大同窓生グループである農工大支援ネットワーク（AT-Netz）は、対人交流を主とする活動であり、昨今のコロナ禍には多大の影響を受け、活動の停滞を余儀なくされてきました。また、メンバーに気力ある年齢層の参加も思うに任せません。これまで実施してきた学生への社会的側面からの支援を同窓諸氏にお願いしたいところです。

AT-Netzは、同窓会同好会の設立以前、1999年頃、産学連携、大学改革に伴う農工大が産学連携の強化、農工大ティー・エル・オー(株)の設立時に活動を始めました。農工大発ベンチャー企業への支援、大学の企業対応に関する支援、学生へのビジネスプラン学習支援等に微力ながら取り組みました。漸次、農工大の産学連携や農工大ティー・エル・オー(株)の事業が軌道に乗りました。

AT-Netz設立に際し、他大学の同窓会がいかなる大学支援に取り組んでいるか、各大学（同窓会）に赴きヒアリング調査を行いました。それら大学の同窓会には産学連携支援のための組織がありました。私共は、まずは、できるところから農工大や学生への支援を進めた次第です。その他に大学との共催で社会的関心が高い技術課題に関する市民講座、および同窓生間のコミュニケーションを強めるために異業種交流会等も開催しました。こうした農工大産学連携支援の取り組みは2003年にNHKの取材を受け、朝のニュースで放映され、農工大の産学連携が注目を受けました。

その後、同窓会の同好会が組織され、学生の就活などの社会的側面の学習支援に取り組みました。先輩諸氏と学生との交流（「企業で働くとは！」等の講演会）、学生の就活支援を念頭に企業見学会を15回開催しました。私共メンバーは企

業出身者で、企業の状況はある程度理解できるので、見学に先立って当該企業に関する情報を提供し、単に技術のみならず、広い目で企業を見るように示唆しました。中には大学のキャリアアドバイザーとして学生支援を担当したメンバーもいました。

大学は就活、企業との連携などで、今後共社会との接点は多くなると推察されます。同窓諸氏の今後の農工大へのご支援を期待します。



農工大学生 工場見学会

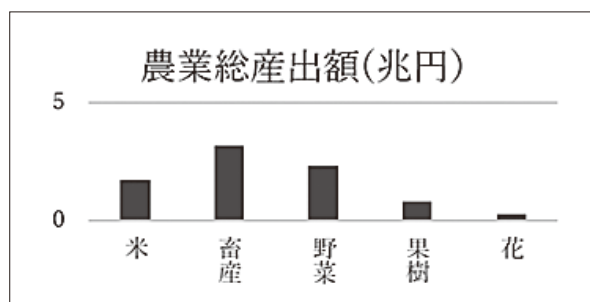
日本の食料事情・農は国の基なり

前之園 孝光（獣医学科S44）

1. コロナ禍による経済危機は、世界的に広がっている。更にロシアのウクライナ侵攻で先行きが不透明になった。いまだ収束が見えない中、今後、どう社会・経済活動を続けていけばいいのか？国の「食の安全保障」等について、共に考えてみたい。
2. 農林水産省は、令和元年における農業・食料関連産業の国内生産額（概算値）は、118兆4,764億円と公表した。これは、全経済活動（約1,048兆円）の11.3%を占めている。部門別にみると、農林漁業は12兆4,554億円と全体の10.5%を占めており、食品製造業は37

兆8,671億円（同32.0%）、関連流通業は34兆6,582億円（同29.3%）、外食産業は28兆9,485億円（同24.4%）となった。

3. 令和元年における農業・食料関連産業の国内総生産【国内生産額から中間投入（生産のために投入された財・サービスの費用）を差し引いた付加価値額】は、53兆8,174億円になった。これは、全経済活動（国内総生産：GDP（約560兆円））の9.6%を占めている。
4. 農業総産出額は9兆558億円。農業所得は3兆4,873億円（平成30年）であった。農業総産出額の主な内訳は、米：1兆7,416億円（19.2%）、畜産：3兆2,129億円（35.5%）、野菜：2兆3,212億円（25.6%）、果実：8,406億円（9.3%）、花き：3,327億円（3.7%）となっている。



5. コロナ禍をきっかけに、身近なガソリン価格や輸入原材料価格の急騰、天候不順などが複合的に影響して食料品の値上げが止まらない。日本の食料とそれを生産する農畜水産業は、世界的な影響を受けながら対応しなければならない。
6. 農林水産省は、2022年2月4日、2021年の農林水産物・食品の輸出額が、前年比25.6%増の1兆2,385円だったと正式に発表した。
7. 「食」には①生命を維持する働き②健康を増す働き③心身の力を盛んにする働きがある。近年の研究では、食生活が私たちの健康と密接に関係し、病と闘う時にも重要な役割（免疫力アップ）を果たしていることが次々と明らかになっている。

国民の健康管理（快眠、快食、快便）になくてはならない食物を生産する農畜産業は今後益々、必要となる。

農工大時代のチョットしたことが、
大きな結果を生みました。

花輪 正明（製糸学科S46）

3年生の時、工学部前の道路を夜10時過ぎに車で通った時、4階の柿の木研究室の蛍光灯がついていました。通常では通り過ぎてしまうのですが、その日に限り、気になり正門でハンドルをきり大学構内に入り、研究室に行きました。研究室には助手の難波先生と、化学工学講師の宮田先生（後の農工大学長）が話をされておりました。こんなに遅い時間にお二人で、どうされましたか？と部屋に入り、仲間入りをさせて頂きました。研究に対する苦労話や、挑戦が大事との話で盛り上がりました。その話の中でお二人の先生が、大学時代にグルノーブル大学に派遣され修学をされたその経験が非常に役立ったとの話から「花輪君もグルノーブル大学に行くか？」と投げかけられました。私は「とんでもない！我が家はそんな外国に行かせてくれるような経済力はありません」と言いましたところ「大丈夫、費用は出してもらえから」と言われました。日仏工業技術会がその費用を支援して頂けるとのことで、外国に一度も行ったことがない私は一瞬怯みましたが、一度は行ってみたいとの思いから「お願いします！」と口から出てしまいました。そしてお二人の先生からのご推薦でグルノーブル大学への修学が決まりました。フランス語はからっきし！ですが、英語で大丈夫と言われ、不安ながらも胸がわくわくしました。そして、当時は成田空港はなく、羽田空港からひとりぼっちで、北極経由⇒ブリュッセルに、初めて外国に足を踏み入れました。ブリュッセルには早朝着き、街で朝食を食べようと思いきや、みんなフランス語ばかり、ベルギーがフランス語である事すら知らずの渡航でした。おながが空いたなと思った時に、サラダがウインドウに並んだお店が目にとまり、サラダを指さし、さらにパンが欲しいので「Give me bread」と言いましたが、お店のおばちゃんは「Bread?」と、無表情。エッ！通じないと落胆し「パンの事なんだがなー」と言いましたら、おばちゃんは「Oui Monsieur, pain s'ilte plait」と言い、パンが出て

きました。パンはフランス語でもpainであることを、初めて知りました。この時、世の中何とかなるんだ！と、強く思い、この思いは、社会人になってからも、恐れることなく果敢に挑戦するきっかけとなりました。この経験は、シオノギマンとして海外企業とのライセンス導入で決裂寸前の交渉を纏める事にもつながり、あの時、研究室の蛍光灯を目にした時、通り過ぎることなくお寄りしたことが、大きな結果を生むんだなーと思い、ちょっとしたことが人生には大事だなーと強く感じました。この事があったからか、74歳になる現在もシオノギマンとして雇用して頂いております。



東京農工大学のアフガニスタン教育支援

田谷 一善（獣医学科S46）

2022年1月6日、本学同窓生1名と岩手大学同窓生2名のアフガニスタン・カブール大学教員が様々な困難を乗り越えて来日しました。2021年8月、アフガニスタンで、タリバンが政権を奪い、これを恐れた多くの国民が国外脱出を希望して、カブール空港に押し寄せる様子がニュースとなりました。本学は2002年からアフガニスタンの教育支援を続け、同窓生がアフガニスタンの復興に向けて頑張ってきました。しかし、昨年の政権交代以降、様々な困難から従来の大学教育の継続が難しくなり、本学の元指導教員に救いを求める連絡が届きました。本学では船田良農学部長がリーダーシップを取り、日本政府に交渉を続け、今回

の3名のカブール大学教員の救出に成功しました。

本学のアフガニスタン教育支援を振り返りますと、20年前に遡ります。2001年9月11日に発生した米国同時多発テロ事件の後、アフガニスタンが米国軍によりタリバン支配から解放されました。その後、日本は5億ドルの支援を行うことを公表し、その支援金の大半は教育支援に使用されることが決まりました。しかし、当時はアフガニスタンの高等教育の現状が把握されていませんでした。そこで、2002年5月に岸田文雄文部科学副大臣（現内閣総理大臣）や井上審議官がアフガニスタンを訪問する視察団に本学から4名の教授が随行してアフガニスタンの高等教育の現状を調査してきました。本学は、この機会に日本の大学として初めてカブール大学と姉妹校提携を結び支援が始まりました。カブール大学の若手教員を修士課程・博士課程で教育して帰国させ、彼らが自らの手でアフガニスタンの高等教育を復興することを目的としました。これまで、本学で修士号・博士号を受けたアフガニスタン留学生は70名に及びます。本学大学院を修了したカブール大学出身者は、教育による祖国の復興を目指して活躍していました。獣医学科でも、12名のカブール大学教員が博士課程で学びました。3名が女性で、2008年に修了した女性博士第一号は、アフガニスタン女性として3番目の博士号取得者になりました。アフガニスタンには、救出を望む本学の同窓生がまだ複数名おられます。彼らは、現在命の危険に晒されていますので、一時母国を逃れて、国政が安定した時には、再び帰国して祖国の復興に尽くしたいと希望しています。

引き続き、本学で学んだ同窓生の命を救っていただきたいと願っています。

▶ 雑木林に暮らして

佐藤 久江（農学科S47）

子供の頃から植物が好きで、大学では植物研究会に入っていました。

1980年頃から、移住した三浦半島で植物観察会をしていました。その頃、植物たちが盗掘されたり、開発によって無くなってしまったりと残念な思いをしていました。2002年から標高620mの八ヶ岳南麓で、シュンランやイチヤクソウ等のある雑木林に住んでいます。ここは甲斐駒ヶ岳を望む、西向きの、川へと下る斜面林です。約1,000㎡の平坦な部分は松林でしたので、松を切り、家と花壇と果樹園にしました。残りの約4,000㎡の雑木林はそのまま残しました。ここは500年続いた、過疎化した集落の薪炭林であった場所です。伸びすぎた樹木を切ることにより、シュンランが増え、スミレ属、ジュウニヒトエ、ヤマツツジ等も増えてきました。（写真）



この地では、「八ヶ岳自然クラブ」に入会し、この中の「山野草グループ」で標高1200mの県有林の植生調査をしながら、保護活動もしています。サクラソウは盗掘防止のためのパトロール等によって、今では大群落になっています。2012年からは標高約1500mの八ヶ岳の中腹でオキナグサの保護もしています。有毒とされるキンポウゲ科の植物であるにもかかわらず、ニホンジカが食べてしまうのです。ワイヤーメッシュで上部を覆うという方法で、鹿の食害が防げているようで、ここだけはオキナグサが増えてきました。

また「県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」や、入笠湿原でもボランティアに加入して植物保護活動をしています。さらに最近は「八ヶ岳南麓原生花保存会」でのお手伝いもしています。ここでは八ヶ岳南麓に元々あり、是非とも残したい植物（アズマイチゲ、ニリンソウ、キツネノカミソリ、フシグロセンノウ、ツリガネニンジン等々多数）の環境整備をするという地道な作業もしています。この会では、里山の自然が良く残り、スミレマニアには有名な場所である「国蝶オオムラサキの観察路」や「長坂森林公園」、「泉ビオトープ」等の管理もしています。

田舎暮らしをのんびり、ゆっくりという毎日ではありませんが、卒業後50年、ずっと植物に関わってこられたことを幸せに思っています。

▶ 昨年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」に岡谷蚕糸博物館が撮影協力

高林 千幸（製糸学科S48）

農工通信102号で、NHK大河ドラマ「青天を衝け」の蚕飼育・桑園造営の撮影エピソードが報告されました。あれだけ広い桑園、桑の葉の深い緑とみずみずしさ、どうやって造成したのか？CGではあれだけのシーンはできないよなあ、などと思っていたところ、ドラマのオープニングで須関氏、横山氏の名前や東京農工大学のテロップが流れ、やはり農工大と群馬県が指導していたから、あのようになれたんだと納得したものでした。

実は、私共の岡谷蚕糸博物館（長野県岡谷市）も、ドラマの中で繰糸作業の撮影で協力しました。ひとつは、自宅の囲炉裏端で座繰りをしている娘のゆうに淳忠が工女になってくれないかと、話しかけるシーン。もうひとつは、富岡製糸場にフランス式繰糸機300台が稼働しているシーンで、ゆうがフランス式繰糸機を操っている姿を淳忠が感慨深げに見守るというものでした。

岡谷蚕糸博物館では、150年前の明治5年から富岡製糸場で使われて現存する唯一のフランス式繰糸機2台を展示しています。これは岡谷にだけ存在するという貴重な機械です。

撮影は、このフランス式繰糸機の複製版で行うこととし、当館の林久美子学芸員の指導のもと、ゆう役の畑芽育への座繰り指導、7月にはフランス式繰糸機を操る女優さん17名の繰糸指導を行いました（写真）。私も糸繰り、接緒作業の基本を手取り足取り？（心の中で）行い、丸一日かけ林学芸員の指導により、あたかも実際に糸繰りの作業をしている形にまでもっていきました。当時の女の子も初めて製糸工場に入り、繰糸作業を教わる時もこのような状態だったのではないかなと思い巡らせました。

8月5日NHKスタジオへ。事前にフランス式繰糸機レプリカ版を搬入し、繰糸の繭は明治時代の小さな繭を再現するため、大日本蚕糸会蚕糸科学技術研究所（つくば市）の新保博所長（養蚕S48）に依頼し、原蚕種「小石丸」の繭を提供して頂きました。

撮影は、フランス式繰糸機がずらりと並んでいるシーンを2台の繰糸機を使って再現しようとするものです。定点撮影で手前から2人が繰糸をしているシーンを撮り、繰糸機を奥へずらし他の2人を撮っていくという方法を数回繰り返してCGで繋げ、あたかも片側150人が繰糸をしているようなシーンにしていきます。それを富岡製糸場内の映像と合成するというものです。

撮影は午後3時から夜10時位まで続きました。私は専ら裏方で、繭を煮たり女優さんの間をぬいながら繭を運んだりしました。

放映は数十秒のシーンでしたが、当時の姿が見事に再現され、素晴らしい出来栄でした。裏方



フランス式繰糸機を使っの繰糸指導

スタッフの細かな準備とそれに費やす時間、スタッフの苦労と組織力。彼らの姿を見てただけに放映された時には感慨ひとしおでした。氷山の一角の下の部分の大切さを改めて感じました。（岡谷蚕糸博物館館長）

エビデンスのエビデンス

東野 正（林産学科S50）

農工大卒業後は岩手県の公務員として、林業の試験研究機関で実験を重ね、データを蓄積し、解析した結果を報告するという仕事を定年退職まで続けてきたこともあり、文系と理系という分類でいくと、一応基本的には理系的発想が身についているものと自分では分析している。

なにかの時に、すぐその根拠となるデータとか証拠はあるの？最近ではコロナ禍の医療関係者が頻発に口にするようになった言葉を援用すると、「エビデンス」はあるの？と、ついそこから追求して物を考えることが多い。ただ、テレビで流れてくる医療関係者の発言自体に、エビデンスはあるの？手持ちのデータの信頼性はどうかと突っ込みを入れたくなってしまうのだ。

まず、事実を知りたい。その言説の根拠はなにか。信頼できるデータであるのか。自分自身のことはさておき、単純に疑うことから始める癖が身についているのである。

例えば、全くの門外漢であるが、精神分析の分野の本を読むとき、これは果たしてエビデンスのある理論なのだろうかと疑問に思うことが多い。フロイトが「無意識」の存在を学説として掲げているのであるが、何しろ意識されることがない無意識（語義矛盾？）の存在を、科学的にどう証明できるのだろうかと思ってしまうのだ。さらに、エディプス・コンプレックスなどという概念まで持ち出されると、いや、待てよ、脳科学の見地から、その存在が証明できるのだろうかと疑問に思い、その先を読むことが出来なくなる。

さらにフロイトの弟子と自称するジャック・ラカンになると、鏡像段階論くらいまでなら反対は

しないが、大他者とか対象aとか（このあたりの専門用語は直接検索して頂きたい。私のような素人の理系人間には全く理解できない精神分析の理論（もしかすると疑似科学？）が展開されている）。彼の著作を読むと、どのような理路でその理論が展開されるのか、疑問が噴出して立ち止まってしまうことになる。人間の意志や思考、記憶や感情を含めた精神が脳神経細胞のどのような回路を通じて形成されるのか、そのエビデンスが必要だと思うのである。それが明らかにならないうちは、どんな精神分析理論も想像の物語の世界を出るものではないと思えるのだ。

ただ、実証主義だけでは、世の中息苦しくなる。データや証拠がないと何も説明できない、何も話せないのでは、我々は普通に生きてはいけない筈である。いい加減さ、根拠のない曖昧さ、ルーズさをも兼ね備えながらも、基本的には理系的発想で生きようとしているつもりでいる私であるが、その自己分析には実はエビデンスは無いような気もしてくる。それだけに「根拠無き自信を持って生きよ」という言葉が実に説得力があるようにも思えてくるのである。

そのエビデンスを示せと言われると答えに窮することになるかもしれない。エビデンスのエビデンスのエビデンス…を出せと言われても、どうしたらいいのか分からないのだが。

沖縄復帰50年の節目に想う ふるさと農業振興への留学生の貢献

古賀 淳士（農学専攻S54）

令和4年5月で沖縄が本土復帰して50年となり、復帰翌年に長崎から農工大に入学した私には、1年先輩で琉球最後の国費留学生・家坂正光氏が思い出されます。先輩とは研究室決定前の教養時代に農ゼミ活動を通して知り合い、農業経済学研究室に進まれた後も畜産学研究室員として交流しました。

家坂氏は大学院修了後に復帰7年目の沖縄県庁



家坂正光氏

に入庁し、糖業農産課→農試経営研究室→農政経済課→企画調整課で、さとうきび生産を含む沖縄県農業振興に多大な貢献をしながら54歳の若さで早世されました。その折に農林水産部と企画部の合同追悼集会が開催（H20.3月）され、次の主要成果が紹介されています。

○農試経営研究室＜復帰10年～26年の17年間＞

- ①市況情報解析処理データベース構築
- ②経営支援システム開発
- ③新経営指導手法普及促進
- ④さとうきび経済波及効果解明

○農政経済課＜復帰27年～32年の6年間＞

- ①さとうきび経済波及効果を産業関連分析で公表
- ②全国2例目の県単一農協『JAおきなわ』発足
- ③「沖縄県農家経営指導指針」策定

○企画調整課＜復帰33年～35年の3年間＞

「沖縄21世紀ビジョン（仮称）」を企画立案

更に、追悼資料には人柄等に関する次の様な後記も、

- ・優れた能力と気さくな人柄に加え、夜会交流等もお好きで、皆に慕われていた。
- ・仕事に臨む姿勢から多くを学ばせて頂いた、現場主義、データに基づく企画立案・進捗管理・総括・検証、の重要性。
- ・憧れの方であり、その志を仲間で繋いで行きたい。

以上が追悼資料に見る、家坂氏の沖縄県農業振興への貢献ですが、その志を引き継いだ後輩諸氏による新たな成果も、今日の沖縄県農業振興に貢献していると考えられます。



日本三百名山完全登頂挑戦中

石田 一之（機械工学科S59）

百名山とは誰が見ても立派な山だと感嘆する品格や、昔から人間と深く関わりを持つ歴史ある山の事。これは名だたる名峰に挑み踏破を果たした男のインタビュー記録である。

2021年8月に百名山を10月に3000m峰21座を制覇した石田一之（以後石田）が登山を始めたきっかけは、15年前に登った富士山。そこから10年目には南アルプスへ挑戦。次第に全国の高峰を目指すようになった。「地元が米子で昔から大山に登り、登山に親しんでいました。南アルプスの後に25座程を登った時、百名山を制覇しようと決めました。今から5年前の事です。」5年？一体どんなペースで？「登山シーズン7～10月に月2回以上のペースで登り、一度に2～4座を登り年に20～25座。トータルで75座まで登った頃にコロナ禍となり、本当なら3年前に達成する予定でした」凄まじいペースに驚かされる。しかも計画性と事前準備が必要である。それでも石田は「いえいえ、やっつけですよ」と笑う。「元々私は鉄道オタクで、色々な所に行ってスタンプラリーなど集めるのが好き。登山でも焼き印と登山バッジを集めています。何でも集めるのが好きなんですよ」百名山制覇が収集癖から来ているとは予想外だが凄い。

早速、名峰での思い出を振り返ってもらう。「北アルプス涸沢岳に行った時は天気が良くキレイな景色を拝めました。ここから奥穂高岳や前穂高岳に行ったりしました」さらに、出会いや交流も面白さのひとつ。「北海道の幌尻岳では山小屋に3泊したのですが、私より少し年上の男性2人組と仲良くなり、ずっとお喋りして熊よけしながら登山しました。幌尻岳はヒグマが多く生息していて、初日山小屋へ行く途中、50m先ぐらいにヒグマを見ました。大きくてビックリしたのと同時に、カーブのメヒヤ選手に似てると思いました（笑）」。「一番ヒヤリとしたのは中央アルプスの宝剣岳。「木曾駒ヶ岳から空木岳に縦走して行く途中の宝剣岳がすごい絶壁なんです。杭を持ってお

けば落ちないけど、一番恐かったですね」。

石田には登山仲間がいる。大学同級生で同じマツダで働く橋野浩だ。橋野とは九州、北海道の山と一緒に登った。「遠くに行く計画を立てるのが大変。そんな中、百座以上登っていて凄いよ。仕事の休みを取る処から計画は始まるそうです（笑）」と褒めちぎり。

石田の次なる目標は「百高山」「二百名山」「三百名山」制覇！年月日と山名が書かれた計画表！石田の挑戦に限界はないようだ。



東野文男先生の一言から始まった私の人生

鈴木 祥一（機械工学専攻S63）

私が東野文男教授の下で流体・気体力学を研究していたのは、今から37年ほど前のことだ。ある日先生が研究室で「この中でドイツに行つて勉強したい人はいないか」と言われたことを発端に、私は西ドイツ（当時）のアーヘン工科大学に国費留学することになった。同大学と農工大は協定校となっており、東野先生はこの協定にも深く関わっておられた。私はその交換留学生第1号となった。

アーヘン工科大はカルマン渦で有名なセオドア・フォン・カルマン教授をはじめとする多数のノーベル賞受賞者を輩出する名門校。私は同大の衝撃波研究所で、厚板の一面を楕円形の一部とな

るように仕上げ、楕円の第一焦点で発生させた衝撃波を板に反射させ第二焦点で収束させて、更に高い圧力などを生み出す現象の数値シミュレーションをしていた（同大にはご縁があり、就職後に再度留学し経済学を学んでいる。）。

研究の傍ら、私は大学の見学旅行でベルリンへ行った。1日ビザを取得して東ベルリンに入ると、当時共産主義国家であった壁の向こう側にある東ドイツの人々の暮らしは質素で、クリスマスのシーズンだったが街全体がどんよりと暗く見えた。検問所では、同じ民族の親戚、友人同士が花束を手渡して別れを惜しみながらいつまでも手を振る光景を目にした。当時、西ヨーロッパ諸国では国境の人の出入りが入出国審査無しで自由にできるようになった時代だったので、とても印象的だった。政治が人々の人生を大きく左右する現実を目にして、日本や日本人についても考えることとなった。また、「穀物からパンまで」という著書を翻訳したのをきっかけに大学以外の様々なドイツ人とも交流することができた。

国と国を結びつけ、国民の役に立ちたい！人と関わりながら仕事をしたい！と思い、国家公務員を目指すことにした。

私が勤めることになった会計検査院では、IT、公共事業、農業政策などの検査を行っている。そんな中で、私はバブル崩壊後の金融危機の最中、金融の検査を担当することになった。国が70兆円もの公的資金を金融システム安定のために投入するのをいかに検査するか。アメリカや北欧に行っ

て様々な人と会い調査して、検査を進化させることができた。現在は、衆議院事務局に出向して、税制、財政、金融の法案審査に係る仕事に携わっている。

仕事では厳しい議論となることもあったが、家族、友人や、留学先、職場での出会いの中で、相手の心を感じて動くことによって人や物事に対する感じ方が変わっていった。人の心を大切に自分でできることがあれば精一杯やろうと心に決めている。チャレンジ精神を掻き立ててくださった東野先生の思いを引き継ぎ、これからも頑張っていく所存である。

振り返って思うこと

榎木 治久（農芸化学科S63）

私は語学が苦手で未だに苦勞していますが、外国語はコミュニケーションツールのひとつとしては大変重要であると実感しています。

学卒後に宝酒造株式会社（現在は事業部門が独立したカラバイオ株式会社）に入社し生産実務を担当したのですが、会社は製造拡大と市場開発を目指して1994年に中国・大連に工場を建てることになりました。そして、その後合わせて15年駐在する事になりました。

勿論最初は中国語を全く喋れませんでした。駐在期間を過ごすうちに簡単な会話なら分かるようになりました。そして少し喋れるようになったつもりでいましたが、会社では通じていたのに街中に出て市場などで話してみると通じないということが何度かありました。中国の社員は駐在期間が長かった私が喋る“中国語もどき”を理解してくれていたのです。

結局十分な習得はできませんでしたが、IT化に伴う社内メールコミュニケーションが進んだこともあって業務において言葉によるコミュニケーションの問題は小さくなっていきました。

その後、会社は発展が期待されるインド市場を目指すことになり、製品の製造移管のために今度はインド・デリーに赴任する事になりました。イ



妻と私の結婚式に仲人として出席してくださった
東野教授御夫妻

ンドは各州で文化や言葉が大きく異なります。そのため彼らは「インドはヨーロッパのようなものだ」と私に説明してくれていました。高等教育を受けた人は英語、ヒンディ語、そして地元の言葉の3か国語は話せるのが普通で、日本語も彼らにとってはインド国内のたくさんの言葉の中の一つぐらいの感覚だったようです。従って、私が言うのもどうかとは思いますが、下手な英語を話す人が多く会話に大変寛容な環境状況にあった事は幸運でした。中国と違って食事が合わなくて苦労したものの、何とか4年半の駐在期間を過ごすことができました。

結局 海外業務は約20年経験することになりましたが、少なくとも製造移管といった業務の場合においては、伝えるべき技術と経験があり、受入側の社員に新しい知識を取り入れようとする意欲さえあれば、言葉の問題は第一の問題ではないと振り返っています。

一方で、日本に戻って業務を進めて行く中で、言葉の問題は無いはずなのに上手く伝わっていないと感じることが沢山あります。コミュニケーションを深めていくことの重要さをかみしめています。外国で働くにせよ日本で働くにせよ、若い方が学生時代に色んな人と関わり、語学などのコミュニケーションスキルに興味を持つておくことが、これからの企業を支えて行くことになり、会社人生を楽しめるものにすると思う次第です。



出向先のインド子会社で Holi 祭典行事で
現地社員との写真（筆者は左から3番目）

▶ 猟師になりました

稲葉 健司（農業工学科H2）

若い頃をともに過ごした懐かしい皆さん、お元気ですか？お会いしたいです。私は、卒業後、北海道職員となり農業基盤整備の仕事を行ってきましたが、最近、狩猟を始めたので報告します。

子供達が小さい頃、冬になると、歩くスキーを履いて家族で近郊の里山（岩見沢市利根別自然林、江別市野幌森林公園等）を歩き回っていました。その時に、ふと、「私たちの祖先は食べ物を求めてアフリカを出発し、何世代もかけて、家族と氷河期のシベリアを越えるような長い旅をして、とうとう日本列島に辿り着いたのでは」と思い、そのような家族が私の家族とダブって感じられたことがありました。そのころ、アリューシャン列島の先史時代を描いたスー・ハリソンの小説「ソング・オブ・ザ・リバー」を読んでいて、その影響もあったと思います。その後、網走市の北方民族資料館で北極圏とアイヌを含むその周辺の狩猟民の生活が展示されているのを見て、とても惹きつけられました。このようなことがあり、数年前、網走市の猟師（80歳）の弟子になりました。

そして、昨年2月、網走市卯原内の山林で初めてエゾシカを獲りました。林道を車で流し、斜面に鹿の親子を見つけ、そっと車を降りて、子鹿を狙って発砲、その距離約50m。子鹿は少し走った後、崩れ落ちました。今まで生きていたものが、私によって命を奪われ、肉となり、私が命を続ける力になる。頂いた命を無駄にすることなく、生



きていかなければ、そして、いつか私も土に還るのだとの思いが自然に湧きました。

狩猟は一見、自然保護とは真逆な行為に思われがちですが、野生動物の数を適正に制御することは、人間と野生動物の共生のために必要だと思います。また、最近では、札幌市街地でも熊が出没することがあり、人間の生活が脅かされています。これも、狩猟により熊に圧力をかけ人間の世界に近寄ったらダメなことを学ばせることで市街地に近寄らせないことができると思います。そのような社会貢献ができればと思っており、いずれは、熊も獲りたいと思っています。

大学時代から北海道余市までの道のりを振り返って

平川 敦雄（生物生産学科H11）



今から31年前、私は学費を賄うために渋谷の飲食店でアルバイトを始めたことがきっかけでワインの世界に興味を持ち、19歳の時に、フランスの第一線で一流のソムリエを目指すことを決意しました。リュックサック一つを背に新潟港を出航し、極東の街から鉄道を乗り継いでユーラシア大陸を横断、フランスに到着したのが1995年夏、22歳の時でした。仏語を知らずに渡航してきた1年目は厳しい現実の壁に打ち拉がれ、レストランで働くことを断念、西欧から東欧のブドウ園を野宿して歩きながら見聞を広げました。2年目、アルザスのブドウ園で仕事をしましたが、部屋代を支払えるお金がなく、畑にテントを構えて生活しました。焚き火で食事を作り、ろうそくの明かりで勉強をし、温めたお湯をペットボトルに詰め込んで抱きしめて眠る日々が続きました。

3年目にボルドーの銘酒シャトー・ラフルールの研修生として採用されました。社長のギノドー氏は会話能力の低い私に、栽培・醸造技術のあらゆる知識やノウハウを熱心に授けてくれました。そして「頑張れば、フランスでエノログ（国家醸造士）になれる」と励ましてくれました。その言

葉に刺激され、フランスで認められた醸造家になろうと決心しました。その後、語力を習得し、ラングドック、コート・デュ・ローヌ、プロヴァンスのワイナリーで栽培、醸造の修行を積み、フランス農水省管轄の国立技術士養成機関、ENSAアグロモンペリエ（現SupAgroモンペリエ）に進学。難関の試験全てに合格し、31歳でフランス農水省認定技術士、国家醸造士、ENSA認定マスター・オブ・サイエンスの3免状を取得しました。そして資格と経験を武器に、ボルドー、ブルゴーニュ、ロワール、南アフリカ、ニュージーランドの名ワイナリーで醸造技術者として12年間働きました。

2008年、ビザの更新が難しくなり帰国。北海道に移住し、ザ・ウィンザーホテル洞爺のソムリエを経て、2014年に余市の南斜面の農地に農業生産法人平川ファーム、続く2015年に株式会社平川ワイナリーを設立しました。醸造用ブドウの樹を育てつつ、野菜栽培や北海道庁の事業、飲食業のコンサルを受託して厳しい経営の時を乗り越え、設立6年目には農地を13.5haまで拡大しました。

現在、私は49歳。大学時代を振り返ると、これまでの人生の中で最も自由な時間があり、また毎日が修行であり、世界に挑戦する目標が生まれた時でした。年間35,000本のワインを生産するようになった今、経験と知識と感性を生かし、ワインが有する農産物的価値と産地固有の味わいの表現を目指して邁進しています。おいしいワインをお届けできるようにがんばります。お世話になった先生、そして東京農工大学に心から感謝致します。

atsuo@hirakawawinery.jp



東京農工大学少林寺拳法部OB会「拳友会」の活動紹介

間野 大樹（機械システム工学専攻H12）

本会は40数年の歴史を誇る本学少林寺拳法部のOB会です。部を創設した岡部敏弘会長（林産院S56）を中心として、会員相互の交流を深め、現役学生の支援に取り組んでいます。秋の学祭では、演武会で学生部員が修練の成果を披露し、総会で事務局の活動報告と様々な分野で活躍する方々の講演会を行っています。2021年度は昨年度と同様にオンライン会議となり、全国各地から多くの方々にアクセスいただきました。講演会では、少林寺拳法の教えを活かして子育て支援活動に取り組んでいるOGと、少林寺拳法の修練を継続しながら地域のリーダーとして後進の育成にあたっているOBから、自身の経験とそれに立脚した生き方についてお話しいただきました。拳友会は農工大と少林寺拳法を接点として様々な世代が集う親睦の場であり、温故知新の機会でもあります。ともに汗を流した皆さまのご参加をお待ちしております。

「子育て支援って何するの？」

間野（佐藤）聡子（物質生物工学科H8）

私は農工大卒後に看護師資格を取得、病院勤務を経て、現在は子育て支援活動に携わりながら、自らも子育て中です。今の活動はキャリアと直接は結びつきませんが、全経験が今につながり、子育てする中で人とのつながりに改めて感謝すると共に、人に恵まれる幸せを感じています。我が子にも「人に迷惑をかけない」ではなく、「人にお世話になったら、感謝やお詫びの気持ちをきちんと伝えること」を大切にするよう伝えています。少林寺拳法の教え「半ばは人の幸せを、半ばは自分の幸せを」を実体験として感じます。子育ては地域に根差し、信頼し合い、みんなでつながって助け合いながら、その人らしさを育んでいくもの…自分ももらっている地域の温かい眼差しやお互い様の気持ちを、誰もができる支援として捉え、皆さんにも実践していただけたらと思います。

「金剛禅的生き方」

才津 行弘（獣医学科H11）

平成3年に農工大に入学し、平成5年に獣医学科に再入学した私に力をくれたのが少林寺拳法部とその仲間存在でした。卒業後長崎で就職してからも少林寺拳法を続け、現在、道場を開き、長崎県連盟の理事長を務めています。現役だからこそ伝えられる、少林寺拳法の真髄たる金剛禅的生き方を主題に進めました。拳法をやっていないなくても心がけと行動で生き方は変えられる。そのためには半分だけでも人のことを考え行動できること。小さな陰徳による積徳で、まずは自分の身のまわりから豊かな人間関係を築いていきませんか、という人としてごく当たり前のことを話させていただきました。鬼滅の刃の煉獄さんみたいに、夢をもって熱く生きる大事さ、そして人に感謝を伝えること、人の喜びを自分の喜びとすることを提案させていただきました。とても熱心に聞いていただきました。

農工通信104号寄稿文募集！

みなさまからのご寄稿お待ちしております。2月末までに事務局にお送り下さい！
詳しくは「事務局だより」にて

キャンパス便り

野生動物管理のための狩り部

狩り部代表 安田 和真（地域生態システム学科3年）

私たち狩り部は ①野生動物管理の担い手としての狩猟者および ②その理解者・協力者を輩出することを理念として活動しています。近年ではシカやイノシシなどの野生動物による農業被害や森林被害が増加しています。そのような問題に対して有効な対策を考える学問が野生動物管理です。例えば、野生動物による被害をおさえるためには個体数調整・被害防除・生息地管理の3つの要素をバランスよく実施することが必要だと言われています。このような専門的な知識を持って野生動物を正しくマネジメントすることが理念①になります。また、野生動物管理に関して正しい知識を持った人を狩り部から輩出することで、効果的な考え方や手法を社会に浸透させることが理念②になります。

それでは実際に狩り部が行っている活動について紹介します。私たちの猟は主にわな猟で、シカやアライグマを対象としています。猟期にはシフトを組んで交代で罠の見回りを行い、部員で協力して狩猟をします。毎回獲物がかかっているわけではないので、現地に行くだけで終わることもあります。かかっていた時の嬉しさはたまりません。

また、捕獲した鳥獣は利活用しています。例えば、肉はジビエとして美味しくいただく、骨や皮からは標本や剥製を作るなどです。これらの活動を通して、野生動物を捕獲することは単に被害を抑えるための活動ではなく、恩恵を受ける事ができる有益なことだと理解する事ができます。

以上のように狩り部は2006年に成立して以来、理念を達成すべく活動を存続しています。今後も野生動物による農業被害や森林被害は増えていくことでしょう。私たちにできることは何かを常に考えつつこれからも活動を続けたいと思います。



地図を見ながら山を歩く様子



2021 学祭の様子

掲 示 板



早生樹資源の有効活用による「カーボンニュートラル社会と林業再生」実現へ

農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センターでは、資源・物質循環、自然環境、野生動物保護管理、中山間地域農林業、都市型農業の5教育研究分野が有機的に連携し、山岳地域から里山地域、都市にいたる8か所のフィールドを活用して持続可能な社会の実現に結びつく教育研究を実践しています。このたび、早生樹資源の有効活用による「カーボンニュートラル社会と林業再生」実現に関する取組みについて、株式会社ジャパンインベストメントアドバイザーと共感し、共に取組む連携協定を2021年9月に締結した上で、11月より共同研究を開始いたしました。

戦後に拡大造林されたスギやヒノキ人工林の主伐期を迎えた近年、伐採後の再造林が社会的な課題となっています。再造林の種別といたしまして、極めて成長速度が速い樹木である早生樹を利用した森林の造成が大いに注目されています。本共同研究では、森林科学・木質バイオマス科学の観点から、早生樹を活用した「スギやヒノキ人工林伐採後の再造林手法」、「カーボンニュートラル等の脱炭素社会」の構築を目指します。

「小金井動物救急医療センター」新設（2022年秋）

小金井キャンパス（工学部）に新たに「小金井動物救急医療センター」が開設されます。府中キャンパス（農学部）にある既存の動物医療センターに加えて、大学として2つめの動物医療病院が設置されることになります。新設の小金井動物救急医療センターでは総合診療（専門に特化しない各種診療）と放射線治療（2023年夏開設予定）そして、二次診療機関があまり行っていない、土日祝日・年末年始の診療、夜間診療が実施される予定です。両キャンパスの2つの動物医療センターがそれぞれ特徴的な役割を担い、相互連携・補完しながら高度獣医療が実施される計画です。



外観完成イメージ

お知らせ

「高札」が変わりました。

工学府史料編纂小委員会委員 澤田 孚夫（機械S40）



帝国ホテル正面の歩道上にあった高札「農産陳列所 蚕病試験場跡」（1992(H4) 年建立）は、2年前に新しく建て替えられました。オリンピックに向けて公共用看板を国際的に通用できるようにとった処置で、オリンピックマニュアルに沿って、千代田区として170か所建て替えました。本『高札』はその内の1つで、インターネットウェブサイト「千代田区の文化財」で見ることができます。新しいイメージの近代的な鉄板製の高札となり、千代田区には厚く感謝しております。

なお、当初作成した2つの高札のうちの1つを当委員会史料室に保存してあります。建替えのお知らせが遅くなりましたが、ここに掲載いたしました。

慶 弔

(敬称略)

慶 事 お祝い申し上げます

令和4年春の叙勲

多田 全宏 (名誉教授・農化S43)	瑞宝中綬章
田倉 和男 (電気S44)	旭日単光章
山崎 猛 (農工S50)	瑞宝小綬章

弔 事 ご逝去を悼み、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます

元教員 (工学部教授)	池田 恭一		農化	茂田井 宏 (S37)		糸専	杉山 辰夫 (S23)
農学	関塚 正 (S18)			大井 燎 (S38)		教婦	坂根 政子(竹内) (S10)
	竹内 邦雄 (S24)			深見 博一 (S39)		高工	石野 淳 (S63)
	横山 孝 (S24)			杉森日出丸 (S43)		繊維	田中 康國 (S28)
	長谷部昭人 (S25)			打矢かよ子(松浦) (S48)			鶴岡 建二 (S30)
	高田 昌稔(藤田) (S29)		林産	木内 康寛 (S40)			興石 元嗣 (S31)
	細渕 彰徳 (S32)		林学	鳥居 平吉 (S21)		織化	奥澤 芳雄 (S23)
	横溝 久 (S32)			星 成信 (S23)			西村 彰晃 (S32)
	小林 五郎 (S33)			甕 武治 (S24)			市川 次男 (S34)
	荒井 榮造 (S34)			並木 保次 (S24)			杵村 義昭 (S34)
	中村 文夫 (S45)			宇都宮誠一 (S24)		紡織	遠藤 佑治 (S22)
農学院	折下 巧(料治) (S62)			島津 永司 (S26)			伊丹 敏夫 (S25)
拓殖	鈴木 健三 (S18)			志村 聖一 (S30)		織工	市村 光由 (S34)
	武井 弘 (S20)			竹腰 正保 (S30)			杉村 忠輔 (S34)
生物	新井 力 (S20)			今井 宗隆 (S36)			宮田 周三 (S37)
	三井 淑朗 (S22)			四方 徹 (S39)			高澤 英昭 (S42)
農甲	今井 幸夫 (S22)		林学院	宮木 雅美 (S51)		織高/織高院	仁木 淳 (S53/S55)
	村田 侃 (S22)		農工	脇坂 克彌 (S40)		化工	荒井 直人 (S49)
	岩村 亀夫 (S23)		獣医	竹原 宏 (S17)		工化	武井淳一郎 (S39)
農乙	小林 秋雄 (S23)			吉田 慎三 (S32)			片桐 守 (S45)
農改	内野 邦夫 (S42)			萩原修二郎 (S44)		機械	岡山 和男 (S42)
養蚕	村上 一人 (S18)			早津 徹 (S45)			中村 矩久 (S46)
	鈴木 清孝(高須) (S20)		獣畜	岡部 昭 (S22)			足立 光広 (S52)
	小田部亮一 (S34)		環保	梅田 益男 (S57)			小池上 護 (S52)
養蚕/養蚕院	飯島 忠彦 (S41/S43)		製糸	出山 弘 (S16)		生機	高瀬 清久 (S55)
養蚕	丸山 学 (S45)			佐々木清文 (S17)		機シス	渡辺 康弘 (H5)
養実	小野 栄一 (S22)			小林 壽 (S24)		機シス/機シス院 /機シス博	吉田 秀久 (H7/H9/H12)
織農	新田 酉造 (S24)			竹村 一衛 (S25)		電気	寺田 哲朗 (S41)
蚕別	小木曾英夫 (S28)			中山 秀夫 (S25)		電子	秋山 隆道 (H1)
農化	栢森 壽 (S28)			坪井 恒 (S26)		電情	大澤 淳一 (H7)
	梅津伊兵衛 (S30)			中田 滋雄 (S28)		MOT	小島 真 (H22)
	中山 修二 (S36)			松岡 五郎 (S33)			(学科、卒年順)

※訃報の掲載は令和3年8月以降ご連絡をいただいた方(ご家族から掲載の許可をいただいた方)を掲載しています。

東京農工大学基金へのご支援について

同窓会事務局長 齋藤 徳彦

農工通信102号にて引き続き東京農工大学基金へのご支援をお願いしたところ、多くの方々からのご寄附をいただきました。令和3年10月から令和4年4月末段階での状況を大学からいただきましたのでご報告いたします。令和3年度の収支報告につきましては、大学のホームページに掲載されております。

「東京農工大学基金」寄附者一覧

ご寄付を賜りましたみなさまのご芳名を深い感謝とともに掲載させていただきます。

同窓生、在校生・そのご家族、元教員（50音順、敬称略）
令和4年4月末現在

會田 聡	井手健太郎	太田 悦史	川瀬 桂	古根村 勇	首藤 海	立見 貴光
愛場 信康	出原 敬宏	大竹 俊幸	川瀬 浩明	小林 茂範	榛葉 光夫	立石 寧俊
青木 久	伊藤 彩花	大谷 貞教	河田 孝平	小林 伸紀	新保 靖志	田中 明良
秋元 英明	伊藤 修	大場 国隆	川村 健弥	小林 拓翔	菅原 要	田中 耕平
浅黄 美彦	伊藤隼太郎	大屋 悟士	川村 隆太	小林 悠	杉田 光希	田中 雅夫
麻生 巧	伊藤 慎平	尾高健太・愛子	河本 哲志	小林佑莉安	鈴木 海斗	田畑 清竜
安達佳与子	伊藤 総司	岡部 亮介	神田 尚俊	小室 雅洋	鈴木 敬一	玉川 浩司
足立 隼人	伊藤 岳彦	小川 秀文	木内 一美	齊木恵理華	鈴木 珠理	丹下 昇
阿部 正一	伊藤 宜彦	荻野 優花	北島 大輝	斎藤 健一	鈴木 拓也	丹治 直
安部 浩	伊藤 博之	小熊 浩樹	北原 仁	斎藤 志帆	鈴木 健洋	丹羽 弘之
安部 順斐	伊藤 優吾	奥村 武	喜多村 誠	齊藤 舜	鈴木 輝征	チー スンセオン
新井 敬夫	稲垣 翔太	奥山 伊織	儀間 修太	齋藤 寿弥	鈴木 敏夫	千葉 次信
新井 哲也	井上 彰一	小野澤 秀	木村 聖子	坂井由美子	鈴木 友美	茶谷 武志
新井 真弓	今井 道男	小野田浩平	工藤 智子	坂本 美桜	鈴木 菜々	津田 勝太
安藤 聡	今窪 健詞	小野寺勇志	工藤 智博	坂本 萌恵	鈴木 秀幸	土田 英明
安藤 宗則	岩井 政樹	小原 直子	國貞 勇	佐甲 典子	鈴木 双葉	土屋 陽輝
飯田 大雅	磐佐まりな	嘉数 裕明	窪田 敬子	佐々木美奈子	住谷 学	堤 大児
飯塚 悠貴	岩崎 康博	垣添 雄瑠	熊代 創	佐田 桃華	関澤 信一	網島 岳人
飯沼 純子	岩永 将樹	梶取 洸太	熊原 得也	佐藤 敦保	関根 幸子	天坊 晶
井口 一世	上野 和憲	柏倉 康則	栗山 啓充	佐藤 昌	高橋 亜希	東井 憲一
池田 大樹	上原 敏	片桐 祐	呉松 健吾	佐藤 康幸	高松 晴幸	土志田武彦
池田 典昭	上山 伸一	片山 幸久	桑原 哲夫	佐藤 優衣	滝田 裕三	殿村祐美子
石井 忠	内田 泰代	加藤 銀一	小泉 満代	佐野 弘幸	多計 和真	飛澤 明美
石金 真紀	内山 辰宏	加藤 誠	小岩井和樹	澤田 淳平	竹内 賢一	富田 博
石川 透	内山 恵	加藤 義則	甲田 精宏	澤田 孚夫	竹内謙太郎	豊田 仁
石川 航	梅田 弘樹	金井 颯吾	河野 健二	重村 隆	武内 茂雄	内藤 義広
石田 健	梅本 和隆	金津 尊	甲原 洋	七戸 真	竹内遼太郎	中川 敦雄
石橋 稔	浦上 普治	金子 岳皓	小倉 昇	嶋多 直子	武田 昌之	長倉 美優
磯本桂太郎	大岩 義典	金子 陽子	小堺裕一郎	島村 裕二	竹中 忍	中島 佳映
板橋 久雄	大久保 緑	鎌田 芳明	小島 英明	下山竜太郎	竹林 心春	中島浩二郎
伊丹 大晟	大園 竜也	川上 遼大	古平 明子	宿谷 嬌	龍見 香穂	中島 博美

中島 義也	濱野 喬介	古川 誠志	丸山 浩	森下 忠志	吉田 純平
長島 怜志	濱野 翔太	保泉 溪	万 運賓	森田 結実	吉田 理絵
中田 幸多	羽村 佳祐	細川 誠哉	三浦 敏信	守屋 俊文	依田 晶
仲田 重明	原 洋介	堀 泰治	三浦 英史	守谷 隆一	米原 拓臣
中辻 規雄	針金 秀明	前園 宜孝	水登 恵	矢口真美奈	米山 恵治
長戸蒼一郎	春原 則子	前田一駆人	宮澤 尚之	柳原 浩樹	リオスタクミ
中村誠之介	東谷 拓弥	前森 美起	宮田 博美	柳澤 俊介	若杉 和弘
中村 宇裕	日川 淳	牧 圭一郎	宮田 保彦	山口 由木	若林 結葉
中村 由紀	土方 海周	牧野 隆之	宮本 敏明	山崎 純一	渡辺 和彦
何川 弘	菱田 智子	楨野 義則	三好 俊洋	山田 啓介	渡邊 達也
橋山 絵麗	日隅 友基	益岡奈津樹	三輪正太郎	山田 晴貴	渡邊真紀子
二宮 伸之	平川健三郎	増田 浩之	宗像 奏人	山田三弥子	渡邊 萌心
仁平 善久	普川 健一	松尾 礼子	村井 礼明	山本 和宏	渡邊 琉央
沼澤 歩志	福島 遼己	松川 浩二	村上 潤	山本 寿一	藁谷 至誠
野口 優	福田 宗行	松崎 寛史	村上 隆	横田 久	Ding Yiju
野田 英一	福本 孟生	松澤 美月	村上 智之	横田由紀子	SUKHBAATAR ENKHJIN
萩原 勉	藤枝 洋	松田健太郎	村瀬 順子	横林 和徳	東京農工大学同窓会徳島県支部
長谷川好伸	藤木 七望	松永 尚史	村田 京駿	横家 孝祐	
八反田 充	藤田 浩行	松本 樹亮	村野 文香	吉岡凜太郎	
服部 孝司	藤田 泰宏	松本 信治	村松 幹太	吉澤 和博	
服部 武弘	藤野 衛	松本 夕佳	本山 芳裕	吉澤 啓	
濱崎 芳活	藤本 尚	丸山 信也	森 涼斗	吉田 和恵	

※ご芳名の公開に承諾を得ている方を掲載しています。
 ※5月以降のご芳名一覧は大学ホームページをご覧ください。

同窓会へのご寄附

故 竹村 一衛(製糸S25)ご家族様 他、匿名希望のみなさま ありがとうございます。

農工大つながるプロジェクト 一かがやく農工大出身者募集一

同封の東京農工大学基金のご案内最終ページにありますように、農工大では、大学基金にご寄付いただいた方への返礼品として、本学同窓生が生産した商品をお送りして「一かがやく農工大出身者」をご紹介しますプロジェクトを企画しています。そのため、ご協力いただける卒業生を大募集しています。

母校・農工大と一緒に創基150周年を盛り上げてくださる皆様の応募をお待ちしています。詳しくは「東京農工大学基金」のホームページをご覧ください。

また、東京農工大学同窓会ではこの大学プロジェクトに協力するとともに、一かがやく農工大出身者の支援をしていきたいと考えています。具体的には、

- ・本企画に賛同してくださる同窓生の皆様の商品作りにかかる熱い思いの取材に協力をする。
- ・大学のホームページと連携しつつ、「農工通信」や「同窓会のホームページ」に取材内容の紹介をする。
- ・情報提供等を通じて同窓生・在学生・賛助会員・教職員などの農工大サポーターを相互に繋げる。

といった内容です。

今後、同窓会ホームページ「同窓生の皆様」の中でも「農工大つながるプロジェクト」について逐次掲載していく予定です。



東京農工大学基金HP



事務局だより

1. 会費納入のお願い

同窓会はみなさまからの会費で支えられています。
本会の維持・活動のために会費納入にご協力をお願いいたします。
会費は次の通りです。

1. 終身会費 30,000円／70歳以上 10,000円

2. 年会費 1,500円（年会費は年度4月～3月を1年としています。）

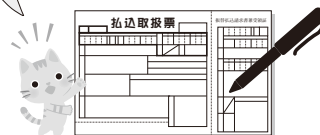
同封の払込票にて、上記いずれかの金額を納入してください。会費を納めていただく「正会員」になります。

◇農工通信に払込票が同封されていない方は納入済です。 ◇過去に遡って納入の必要はありません。

※7月中旬時点のデータに基づいておりますため、行き違いで既にご入金いただいておりますらご容赦ください。

※新たに70歳以上の会員が終身会費（10,000円）を納入する場合は、払込票の備考欄に生年月日をお書き添え下さい。

払込票の発送も年1回になります。
ご協力をお願いします。



2. メールアドレスの登録、住所・勤務先等の変更届けのお願い

同窓生への各種連絡にスムーズに対応するためメールアドレスのご登録をお願いします。

同窓会ホームページ「会員情報の変更」から随時登録、変更が可能です。同封の変更連絡票はがきでも受けつけますので住所、勤務先等の変更があった場合もご連絡願います。

また近年、部会・支部より総会案内をメールでお送りしたいとの要望が増えておりますことから、「集会案内の送付」の可否につきましてもお知らせ下さい。

なお、同会が保有している会員の個人情報の公開については、ご本人の意向に沿って管理・運営し、個人情報保護には万全を期しております。



3. 「本学学生への就職支援」就職先情報提供のお願い

就職支援の一環として、就職活動中の在学生に対し、みなさまの勤務先と氏名の情報提供をしております。就職先情報の提供を希望しない場合は、同窓会ホームページ「会員情報の変更」または、同封の「住所・勤務先変更連絡票」にて同窓会事務局までお知らせください。ご連絡がない場合は了承されたものとして、就職情報を在学生に提供させていただきます。なお、過去にお知らせいただいている情報提供の可否に変更がない場合は、改めてご連絡いただく必要はありません。

4. 会員情報提供について

平成22年5月『同窓会会員名簿』発行の廃止に伴い、個人情報の提供につきましては、部会・支部・クラス会からの依頼により、従来の会員名簿に替わるサービスを行っております。

詳しくは同窓会ホームページ「入会・会員情報」の「会員情報提供について」をご覧ください。



5. 「農工通信」寄稿 随時募集！

寄稿内容は自由です（例：随想、近況報告、研究紹介、仕事に関すること等）。また「農工通信」に掲載する写真や絵、イラストも募集しています。みなさまのご寄稿・作品をお待ちしています！

①一般寄稿：文字数 800字程度（写真1枚） 2月末までの到着分を8月の農工通信に掲載します。

②クラス会報告：300字程度（写真1枚）同窓会HP「クラス会だより」に掲載後、農工通信に掲載。

③画像作品（写真や絵画等）：表紙や挿絵に使用します。※採用の際はご連絡いたします。

・送付先email：tushin@tuat-dousoukai.jpn.org 同窓会事務局「農工通信」宛

・郵送の場合は原稿、写真等は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

第3回代議員選挙について

選挙管理委員長 望月 淳夫

代議員の任期満了に伴う、第3回代議員選挙についてお知らせします。
下記の代議員候補者を10月中旬に確定します。会長候補者を除く代議員候補者が代議員定数242名以上の場合は、被選挙人名簿を作成して投票による選挙を行います。なお、定数未満の場合は、候補者全員を当選とします。その旨、ホームページでお知らせします。

記

- ① 会長候補者 1 名以上
- ② 部会推薦代議員候補者 ・ 部会長（副会長候補者） ・ 会員数に応じて部会から推薦された者
- ③ 支部推薦代議員候補者 ・ 支部長 ・ 各支部から 1 名推薦された者
- ④ 立候補代議員 ・ 立候補を申し出た正会員50名以内

部会推薦代議員候補者及び支部推薦代議員候補者については各部会、支部に候補者の推薦をお願いします。
立候補代議員については、同窓会ホームページに掲載する応募用紙を同窓会事務局に9月30日までに提出してください。

会長候補者の公募について

東京農工大学同窓会 理事会

上記「第3回代議員選挙について」の上記①で会長候補は理事会が提案するとされていることから、下記の方法により立候補者を公募します。立候補者がいない場合は、理事会を中心に調整して候補者を選出します。

記

- ① 立候補者は5名以上の正会員の推薦を必要とします。
- ② 応募する場合は、同窓会ホームページに掲載する応募用紙を9月30日までに提出してください。



事務局長着任のご挨拶

はじめまして

本年4月より同窓会事務局長に就任いたしました齋藤徳彦と申します。昭和35年生まれ、趣味は下手なテニスとなかなか身にならない読書。それと弱いですがお酒も好きです。私は農工大の同窓生ではございませんが、農工大に事務職員として40年以上お世話になり、後年は事務長、部長など役職も経験させていただき、職員の立場から急成長していく農工大の姿を見て感じてきました。私が在職した間に卒業した学生数は、極めて大雑把に計算すると凡そ3万5～6千人ということになります。ほとんどの方とは直接の関わりはなかったものの、それぞれ時期は異なりますが同じ学内の空間にいたことになり、同窓会の仕事に就いている今、改めて感慨深いものを勝手に感じております。この約40年の間にも農工大学は、様々な改革を行い、今では実学志向の特長ある研究大学として確固たる地位を確立し、さらなる発展を目指しております。昨今流行りの大学ランキングはその評価指標など種々ご意見のあるところですが、例えば、タイムズハイヤーエデュケーション日本版ランキングでは、本学はここ数年（2020-2022）全国18-23位と全795大学の上位2～3%内に位置しており高い評価を得ております。これも連綿と続く卒業生修了生の皆様のご活躍と母校へのご支援のおかげだと思えます。

退職後においても、大好きな農工大に関わる仕事ができることになりました。微力ながら同窓会会員の皆様のお役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。是非、日々成長する今の農工大を見に来てください。新たな発見があるかもしれません。

農工通信 第103号

発行日 令和4年（2022年）8月1日
発行所 一般社団法人 東京農工大学同窓会
連絡先 〒183-8538 東京都府中市晴見町3-8-1
(一社)東京農工大学同窓会事務局
TEL 042 (364) 3328
FAX 042 (335) 3500
e-mail info@tuat-dousoukai.jp.org
URL https://tuat-dousoukai.org/
振替口座 00120-8-265877番
加入者名 一般社団法人 東京農工大学同窓会
印刷所 小野高速印刷株式会社
〒870-0913 大分県大分市松原町2丁目1番6号

編集後記

Editor's note

広報・情報部長 村上 尚（応化H12）

この2年程は、コロナ禍で活動の制限が続いておりましたが、一部では対面とオンラインの併用にて部会・支部総会が開催されるなど、同窓生間の交流が少しずつ正常化に向かっている様子を本号記載の活動報告から伺い知れました。今後も部会活動や支部活動等を通じて、交流や同窓会活動がさらに活発になることを心より願っております。平成24年より年2回発行しておりました「農工通信」は、今年度より年1回の発行になりました。今まで1月の後期号に掲載していた会員個人からの寄稿文は本号に掲載しております。引き続き同窓生の皆様からの寄稿をお待ちしております。



HIRAKAWA WINERY
YOICHI

《 母校、農工大の皆様への特別セット 》

L'Aube Grande Cuvée 2016

Dualité Grande Cuvée 2017

Notre Siècle Grande Cuvée 2020

Sélène Grande Cuvée 2021

Solitude Grande Cuvée 2020

Solitude Terre de Yoichi 2020

Second Vin Rosé Terre de Yoichi 2020

Pensées Terre de Yoichi 2021

Ostrea Terre de Yoichi 2021

L'Inconscient Terre de Yoichi 2015

Intimité La Pétillante 2020

Cidre de Yoichi l'Essentiel 2019



限定品を含む、赤、ロゼ、白、微発泡性ワイン、シードルの12本セット（北海道余市産）です。
合計 88,927 円（税込）を、限定品のサービスにより、75,000 円（全国一律送料、クール代金、代引き手数料込み）でお届けいたします。

ご希望の方は、info@hirakawawinery.jp（右上のQRコード：平川ワイナリーHP お問合せにも記載）に
①「母校セット」の注文希望 ②氏名（学科卒業年記載） ③郵便番号 ④お届け住所 ⑤電話番号 ⑥お届け希望日・時間帯（発送期間：2022年9月1日から12月31日の間で）を記載の上、お送りください。

醸造者：平川敦雄（生物生産学科99年卒）

PARTY PLAN

忘年会・新年会・歓送迎会・同窓会・謝恩会など
各種パーティーのご用命はサングリアへ

感染症対策をし、お客様にふさわしい雰囲気で
おいしい料理と楽しいお酒を
ご要望に合わせたスタイルでご調整いたします
お弁当・TAKE OUT BOX も承っております

〒180-0027 府中市本町 1-1-7

TEL 042-368-6368

MAIL info@santgria.jp

HP santgria.jp



ワインをはじめ、様々なお酒に合うオードブルを
各種ご用意しております。

ご帰宅前に気軽に一杯いかがですか？
お好みのオードブルを、お一人様ずつ
プレートにしてご用意いたします。



Close: 22:00 (L.O.21:00) 定休日：火曜日

Tel: 042-368-6368 Address: 府中市本町1-1-7



santgria.neu



うまみ野菜のヒント

野菜を50℃のお湯に浸漬洗浄するとシャキッと生々しさが戻りより美味しく甘みを感じます

金魚草は食べられます

グリーンクリスピー



ほのかな苦味がある厚肉のレタス
シャキシャキ感と歯ごたえを楽しめます

トルコキキョウ



ミニひまわり



我が家の楽しみ水耕栽培

種まき、芽ぶく、育てる、和む、愛しむ、味わう
室内の水耕栽培で暮らしのハーモニー菜園を実現!!
採れたて新鮮うまみ野菜の自産自消を楽しむ
カルシュウムリッチな野菜で健康増進

シソ



いちご



紅水菜



スイスチャード



このように育ちます

フリルレタス



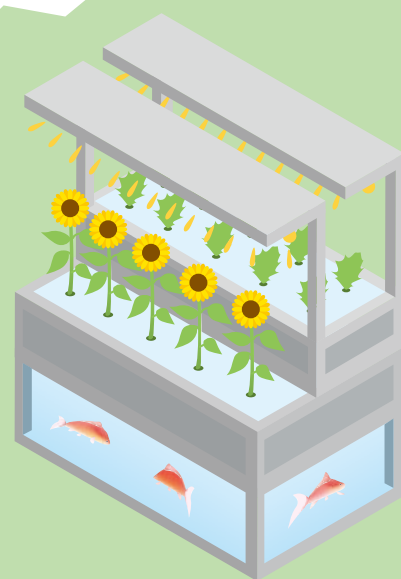
ミニトマト



ニンニク



春菊



室内用の水耕栽培装置でいろいろなベビーリーフがいつでも手軽に
早摘み(スプラウト)の収穫と美味しいうまみ野菜が楽しめます
水耕栽培で育てた根付きの花は花瓶の中で長い間花を咲かせます

製造・販売元・お問い合わせ

株式会社コルテック
代表取締役 渡辺和明
技術顧問工学博士 佐藤俊彦
繊維工学科昭和43年卒

〒359-0002
埼玉県所沢市中富851-2
TEL : 042-942-1287
FAX : 042-942-9214

お中元、お歳暮、贈り物に最適
部会、支部会、同窓会でも
ぜひご賞味下さい。



本学では、農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター(FSセンター)で栽培した原料(米・芋・麦)をもとに製造した農工大ブランドの本格焼酎「賞典禄(しょうてんろく)」を販売しています。

酒 類 販 売 管 理 者 標 識

販売場の名称及び所在地	東京農工大学農学部フィールドサイエンスセンター 東京都府中市幸町3-5-8
酒類販売管理者の氏名	本 林 隆
酒類販売管理研修受講年月日	令和2年9月29日
次回研修の受講期限	令和5年9月28日
研修実施団体名	一般社団法人 日本ボランティアチェーン協会



米焼酎



芋焼酎



麦焼酎



長期貯蔵酒(米)

賞典禄 FAX 注文票

以下のとおり注文します。

東京農工大学 FS センター 宛 FAX : 042-367-5801

【ご注文内容】

長期貯蔵酒 米焼酎 (1,800 円) 40 度 720ml	本	米焼酎 (1,500 円) 25 度 720ml	本
焼酎 米・芋・麦 3 種セット (4,200 円) 25 度 720ml×3	セット	芋焼酎 (1,500 円) 25 度 720ml	本
		麦焼酎 (1,500 円) 25 度 720ml	本
合計注文金額			円

【ご注文者様情報】

お 名 前		フリガナ	
住 所	〒		
電 話 番 号		FAX 番号	
生 年 月 日	T.S.H	年 月 日	※年齢確認をさせていただく場合がございますのでご了承願います。

- 【ご注意】 ※1 お支払いは代金引換またはクレジットカードになります。詳しくは下記 URL をご覧下さい。
ただし、FAX でご注文された場合のお支払いは、代金引換のみとなりますので、ご注文者様以外への配送は致しかねます。
※2 ご注文いただいた上記金額の他に、送料 (5,000 円以上は無料) 及び代金引換手数料 (代金引換額に応じた所定の金額) が必要になりますので、予めご了承願います。
※3 本注文票により収集された個人情報は、賞典禄の販売以外の目的には使用いたしません。

ネットショップ：農工大FSセンター夢市場

<https://noukoudai.com/>

URLが新しくなりました。



問い合わせ先

農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター事務局

TEL042-367-5811